

## (三) 関税条約ノ成立

88 10年10月28日(着) 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

## 四国公使會議ニ於テ中国財政救済ニ関シアグ

## レンノ意見聴取ノ件

第六九九号 (十月二十七日北京発)

十月十八日英國公使本使ヲ來訪シ「アグレン」ノ言フ所ニ拠レハ支那財政ハ昨今絶望ノ状態ニアリ愈々破産ノ時機ニ達セリ其ノ結果北京ノ如キモ何時無政府状態ニ陥ルヤモ計リ難ク四匪ノ状況ハ極メテ危険ノ状態ニアリトノ事ナルカ本使ニ於テ何等之ヲ確ムルカ如キ情報ニ接シ居レリヤト尋ネタルニ付本使ハ本年春頃同様ノ風説ハ屢々聞ク所ナルモ此際別段之ヲ「コンファーム」スルカ如キ特別ノ報道ニ接シ居ラスト答ヘタルニ同公使ハ尙ホ切ニ支那財政ノ危険ヲ力説シ之ニ対スル本使ノ所見ヲ叩キタルモ本使ハ事重大ニシテ未タ十分研究シ居ラストテ特ニ意見ヲ述ルコトヲ差控ヘタルガ兎モ角二十日午前當館ニ於テ新借款團四国公使集合ノ上「アグレン」ノ意見ヲ聴取スルコトトセル処「アグ

果然二十一日朝當日會議議題ノ基礎トスル趣旨ニテ「アグレン」ヨリ支那政府ニ提出セル財政救済意見ナルモノヲ送付シ来リタルカ其ノ要領ハ  
(一) 関税再改訂ノ代リニ明年一月ヨリ現関税ノ二割増徵ヲ為ストセバ年額千四百万弗ノ增收アリ之ヲ担保トシテ五千万弗ノ短期公債(五ヶ年償還)ヲ發行シ塩税余款ヲ担保トスル内外債ヲ全部償却スルトキハ該余款年額四千二百万弗ハ全部手付カスニテ中央行政費財源ニ充ツル事ヲ得ヘク

(二) 国庫ハ之ヲ銀行公会ト總稅務司ノ trust ノ下ニ置キ政府ノ收入ハ全部該国庫ニ払込み支出ハ一切右両者連署ヲ以テ之ヲ為ス事右監理方法ハ支那政府ニ於テ同意ノ意向ナリト信ス云々トアリ

右「アグレン」ノ案ハ畢竟支那財政ノ全權ヲ挙ル處二十一日午後ノ會議ニ於テ「アグレン」ニ対シ各國公使ヨリ詳細ナル質問アリ結局叙上「アグレン」案ヲ各國公使ニ於テ是認スルヤ否ヤガ問題トナリタルニ付本使ハ關稅ニ二割ノsurtax ヲ増徵スルハ異議ナキモ支那ノ國庫監督ノ一条余程重要ノ關係アルニ付大ニ考慮ヲ要スル次第ヲ述べ容易ニ

同意ヲ肯ンセス次テ仏國代理公使本使ノ意見ニ賛成シタル結果意見一致ヲ見ス結局本案ハ支那政府ヨリ請議アリタル場合更ニ協議スル事トシ何レニシテモ華府會議ニハ支那代表ヨリ支那財政整理ノ為關稅引上ヶヲ提議スヘシト思考セラルニ付各國全權カ之ヲ承諾スル場合ニハ同時ニ何等力ノ形式ニ於テ整理方法ニ付考慮ヲ要スル旨各自本国政府ニ電稟スル事ニ協議纏マリ同時ニ「アグレン」ニ他ノ支那財政状態ヲ報告スルコトヲ命スルコトニ決議シ散会セリ  
(右調査書写郵報ス但シ之ハ秘密ノ取扱ヲ為ス事ニ申合セアルニ付左様御承知ヲ請フ)

89 10年10月28日(着) 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

中国財政救済ニ関スルアグレン案ニツキ英國

公使ト談合ノ件

第七〇〇号 (十月二十七日北京発)

往電(八八文書) 第六九九号ニ関シ

十月二十一日英國公使再ビ本使ヲ來訪シ自分ノ本国政府ヘノ電稟案ナリトテ「アグレン」ノ調査ニ基キ支那財政ノ危急状態ニ在ルコト並之ニ対シ監督ノ途ヲ講ズルノ要アルコ

トヲ述ベ尤「ア」ノ意見ハ自分及同僚ニ於テ全部同意セル次第ニアラサルモ此際新ナル國際機関ヲ設クルハ支那輿論ノ反対ヲ招クベク寧ロ支那政府ノ應聘者タル總稅務司若クハ之ニ代ルベキ外国人ヲ充ツルコト可能性多カルベシトノ意見ヲ述ベタルニ付本使ハ英國公使ニ於テ如何ナル意見ヲ本国政府ニ申送ラルトモ是本使ニ於テ意見ヲ述ブベキ筋合ニアラズト思考スルモ他日ノ誤解ヲ避クル為最卒直ニ自分ノ意見ヲ吐露セムニ「アグレン」案ノ前半ニハ異議ナク又何等カノ方法ニテ國際的ニ監督方法ヲ講ズルノ必要アリトノ意見ニ就テハ兎モ角トシ後半ノ如キ案ニハ贊成シ難シ由來支那海關制度ハ國際的ナリト標榜スルモ實際ニ於テハ英人ノ勢力下ニ在リ塩務行政モ亦同様ナリ殊ニ總稅務司ハ其當然ノ職務以外ニ於テモ隨分広キ範囲ニ於テ直接支那ノ行政ニ干与シ居レル處更ニ此上其權限ヲ拡大シテ支那國庫ノ監督ヲモ其管掌ノ下ニ置クカ如キ方法ハ事實ニ於テ英國独リ支那ノ財政ヲ左右スルコトトナルベシ海關監督共ニ今少シク門戸開放ノ必要アリト信ズト述ベタル處英國公使ハ全然本使意見ノ尤ナル次第ヲ首肯シ日本ハ華盛頓會議ニ於テ支那海關及塩務制度改革等ニ就キ何等提

90 10年11月22日（着）ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）  
中國閩稅改訂問題ニ關シ本省ト在中国公使館間ノ往復電報要領回電方要請ノ件  
會議第四八号  
（十一月十八日ワシントン発）  
支那閩稅現実五步再改訂問題ニ關シ本年七月五日閣議決定以來本省在支那公使館往復電報要領至急電報アリタ  
電ノ件

91 10年11月23日（発）内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛（電報）  
中國閩稅再改訂問題ニ關スル交渉経過要領回  
付記一 七月五日閣議決定  
中国廢釐加稅ト輸入稅再改訂ニ對スル日本ノ方  
針ニ關スル件  
二 十一月十四日美濃部朝鮮銀行總裁、中川台灣銀行頭取連名請願書  
アグレン案及ビ閩稅增徵方ニ關スル件

會議第四七号

貴電會議（九〇文書）  
（九〇文書）  
支那閩稅再改訂問題ニ關スル閣議決定以後ニ於ケル交渉要領左ノ通

議スルノ考アル次第ナリヤト尋ネタルニ付本使ハ日本ヨリ進ンデ斯ル提議ヲ為スベシトハ信ゼザルモ會談ニシテ若シ滿蒙地方ノ帝国ノ vested right ヲ覆サムトスルガ如キ議題出ヅル場合ニハ勢ヒ此種行政上ノ勢力範囲ニ關スル問題ヲモ一律論議スルニアラザレバ到底徹底シタル結論ニ到達セザルベク朝鮮トコロニ拠レバ米國國務長官ノ如キハ山東鐵道ノ日支合弁スラ支那ノ主權ヲ制限スルノ意見ヲ有セルガ如キ現ニ鐵道ガ私設營利事業トシテ外国人ニ依リ所有セラルハ近東方面ニ於テモ其例少カラズ況ニヤ合弁トシテ協同ノ權利義務ヲ負担スルニ於テハ毫モ差支ナキ儀ナリト信ズルガ米國ノ如キ常ニ支那ノ主權ヲ侵害若クハ制限スルコトハ嚴ニ之ヲ避クベシト標榜スルニ拘ラズ過般來伝ヘラル煙酒借款ノ如キ其平素ノ主張ニ悖ルコト大ナリトテ往電第六六二号「スチーブンス」トノ会談大要ヲ語リ各國ニ對シ一方ニ於テ支那ノ主權ヲ侵害シ若クハ制限スルガ如キコトノ行ハルハ頗ル了解ニ苦ムトコロナリト述ベタルニ英國公使ハ本使意見ノ頗ル条理アルヲ述ベ辞去セリ

帝国政府ニ於テハ七月九日付ヲ以テ在支公使ニ對シ支那側ニ対シテハ其ノ後ニ於ケル物価ノ変動ヲ考量シタル上一九二二年一月十一日以後ニ於テ現行税率ノ相當引上ヲ為ス事ニ決シタル旨ヲ回答スルト同時ニ外交團ニ對シテハ閣議決定ノ趣旨ニ從ヒ可然回答スルト共ニ臨機我方ノ暫行的二割五分付加稅案ヲ提議シテ其ノ議ヲ纏ムヘキ旨訓令シタル処右ニ對シ在支公使ヨリ七月五日外交團會議ニ於テ英國公使ハ其ノ從来ノ主張ニ反シ釐金問題ト改訂問題トヲ切り離シテ解決スヘシトノ意向ヲ表明シ且改訂問題ニ關シテモ乘リ氣セサル態度ヲ示シタル等ノ事情ヲ參酌シ不敢支那側ニ對シテノミ訓令ノ趣旨ヲ内話シタルニ止メタル旨報告シ來レリ然ルニ其後英國政府ハ支那側ニ對シ八月一日付ヲ以テ（同國政府ハ戰後二年再改訂ノ約ニ基キ再改訂ノ審議ヲ開ク事ニ異存ナキモ）右再改訂ハ事態平常ニ復スル迄之ヲ延期スル事適當ト認ムルコト並ニ釐金撤廢ニ關スル審議ニ参加スベキ希望ヲ有スル旨ヲ回答シ仮政府モ亦英國側（ト）ト同様ノ回答ヲ發シタルニ付在支公使ニ於テハ八月三日付公文ヲ以テ外交團ニ對シ前顧訓令我方付加稅案ヲ提議シタル旨報告アリタリ

右我方ノ付加税案ハ再改訂ノ時期愈々切迫シタル場合之ニ代ルベキモノトシテ提出シタルモノナルヲ以テ在支公使ニ於テモ今遼ニ外交団ノ議ヲ纏ムルノ必要ナキモノトシテ応酬シ居リタル次第ナル處之ニ對スル各國ノ態度ハ〔一〕英國側ニ在リテハ在支英國商業會議所ノ意向ヲ尊重シ此際再改訂又ハ付加税ノ実施ヲ避ケムトスルニ在ルモ万一千ムヲ得ズシテ税率ヲ引上ゲタル場合ニハ總稅務司ヲシテ其増収額ヲ管理セシムベシトノ意向ヲ有スルガ如ク英國政府ハ在支英國公使ヨリ我方ノ提案ヲ具シテ稟請シタルニ對シ前顯支那側ニ對スル同國回答通ノ方針ヲ維持スヘキ旨訓令アリタリ〔一〕米國側ハ始メハ必シモ我方提案ノ趣旨ニ反対セサル様ナリシモ其後條約ニ關スル同國國法上ノ手続ノ關係ニヨリ一時的付加税ニハ贊成シ難キ旨本國政府ヨリ訓令アリ而モ此ノ点ハ現行税率改訂及賑捐付加税問題ノ際ニ於ケル同國從來ノ方針ト扞格スルモノアルニ付在支同國公使ヨリ更ニ請訓中ニ有之〔三〕仏國側ニテハ同國公使ハ我方ノ趣旨ニ贊意ヲ表シタルモ目下在支商業者ノ意見ヲ徵シ居ルト同時ニ本国政府ニ請訓中ニシテ其ノ態度未タ確定セサル趣ナリト云フ從テ其後本件ハ何等進捗ヲ見シテ今日ニ至リタル次

第ナルカ當時支那側ノ意向ニ關シ在支英國公使館側ニテハ支那側華府會議ニ關税自主権問題ヲ提起シ其ノ目的ヲ達セサルニ及ヒ始メテ本件ノ進捗ヲ計ルヘキ下心ナルヘシト観測シタル事アリ

然ルニ最近支那中央財政ハ危機ニ瀕シ之カ救済方法トシテ既ニ轉電済ノ「アグレン」氏提案ノ次第アリタル處今回在支公使ヨリ支那側ニ於テハ右「アグレン」提案ニ同意スルヲ躊躇シタル結果十一月十八日付公文ヲ以テ前顯我方提議ノ付加税案ニ依リ再改訂ノ実施ニ至ル迄暫行的ニ現行税率ニ二割五分ノ付加税ヲ課シ之ヨリ生スル増収額ヲ担保トシテ公債ヲ發行シ内外債ノ整理ニ充當スルノ案ヲ以テ各國ノ好意的考量ヲ求メ來レル旨電報アリ右支那政府ノ提案ニ対シテハ未タ回答ヲ發スルノ運ニ至リオラス

#### （付記）

七月五日閣議決定

中國廢釐加税ト輸入税再改訂ニ對スル日本ノ方針ニ關スル件

支那廢釐加税及輸入税現実五分再改訂問題ニ關スル

大正十年七月五日閣議決定  
帝国政府ノ方針決定ノ件

客年二月支那政府ハ近ク釐金ヲ撤廢シ之ニ代ルヘキ關税増

徵ヲ實行シタク又現行關稅ハ歐州戰爭終結後二ヶ年ヲ經テ再改訂ヲ為スヘシトノ該關稅改訂當時ニ於ケル了解ニ基キ右再改訂ヲモ同時ニ行ヒ度キ意向ヲ有スル趣ヲ以テ關係國ノ贊同ヲ求メ來リ之ニ對シ同三月中在支英國公使ヨリ外交團ヘノ回章ヲ以テ〔一〕現行關稅再改訂ノ為本年八月一日頃關係各國代表者ノ審議ヲ開始シタキコト〔二〕支那力釐金其ノ他一切ノ内地稅ヲ全廢スルコトヲ確保スルヲ条件トシテ七分五厘見当ノ關稅增徵ヲ承認スヘキコトノ二点ヲ支那政府ニ對シ通告スヘキコトヲ提議シ重ねテ本年三月十日英國公使ヨリ本件促進方外交團各國使臣へ督促ノ次第アリ更ニ支那政府ヨリハ最近六月十八日付公文ヲ以テ現行税率再改訂ニ關シ關係國公使ニ對シ意見回示方督促ノ次第アリ而シテ右英國側ノ意見ニ對シテハ米國其他關係國多數ノ同意アリタル由ナリ

就テハ前記英國提議〔一〕支那現行税率再改訂ノ件ハ既ニ大正七年現行關稅改訂當時ニ於ケル了解モアルコトナレハ主義上之ヲ拒否スルヲ得サル次第ナルモ若シ前改訂ノ例ヲ逐ヒ専門家ヨリ成ル列国会議ヲ開催シ最近ノ物価ヲ標準トシ各國品ニ付従値五分ヲ基礎トシ一々税率ヲ算出スルトキハ物

価尚甚シク騰貴シ居ルニ拘ラス銀價ハ大ニ下落セル關係アル為支那内地產ト競争スル綿糸綿布砂糖燐寸等ノ對支本邦重要輸出品ノ新負担ハ現行ノモノニ比シ約五割五分乃至十二割六分増ノ計算トナリ對支貿易上多大ノ悪影響ヲ來スナキヤヲ保セサルニ付先ツ第一案トシテハ現時ニ於ケル物価不安定ヲ理由トシ暫行的ニ一定期間各稅品ニ對シ一律現行率ノ上ニ其ノ三分ノ一見当ノ付加税ヲ增徵シ該付加税ハ之ヲ大正十一年一月十一日ヨリ實施スルコトニ協定ヲ遂クルニ努メ万一千ノ如キ協定成ラサル場合ニハ前記現行税率改訂ノ例ニ依リ成ルヘク低率ニ税率ヲ改訂スルコトヲ努ムルト共ニ之カ実施期間ハ成ルヘク短期トスルコトニテ折合度シ

英國側提議〔二〕釐金廢止關稅引上問題ハ帝國ノ對支貿易上重大ナル關係ヲ有スルノミナラス支那國內ノ現情ニ鑑ミ遼ニ右英國側ノ提案ニ贊同スルヲ得スト思考セラルモ該提案カ既ニ關係國多數ノ支持スル所トナリタルニ拘ラス帝國政府独リ無碍ニ之ヲ拒否スルコト對支關係ノ現情ニ鑑ミ甚面白カラサルニ付之ニ關シテハ帝國政府ニ於テ更ニ好意的考量ヲ加ヘタル後追テ之カ具体案ヲ提議スヘキ旨ヲ回答スル

コトニ致シ度シ

（付記二）

十一月十四日美濃部朝鮮銀行總裁、中川台灣銀行頭取連名請

願書

アグレン案及ビ関税増徴方ニ関スル件

拝啓陳者弊行共ハ先年政府ノ御内旨ヲ稟ケ共同シテ中華民國政府ヘ資金ノ貸上ヲ為シ來リ其總額ハ直接、間接ノ分ヲ合スルトキハ合計金毫億円ニ達シ居ル次第ニ有之候然ルニ近年支那政府ハ期日ニ至リ元利金ノ仕払ヲ怠リ吾々關係銀行ニ於テハ尠ナカラス困惑仕居候次第ニ御座候右ニ對シ先般來人ヲ派シ本年五月迄ニ仕払未済ノ分ニ對シテハ短期國庫債券ヲ受取り夫々決済ノ道ヲ講シ候得共右ハ全ク姑息ノ方法ニ有之斯クノ如キ方法ニ依リ永ク支那政府ノ義務ヲ果サシムル見込相立兼候就テハ今後支那政府ヲシテ債務ヲ全ウセシムルニハ同政府ヲシテ歲入增加ノ道ヲ謀ラシムルヨリ外良策無之候様奉存候承ル所ニ依レハ近時同國關稅改訂ノ議有之明年一月ヨリ現行關稅ノ式割ヲ付加税トシテ當分増徵セントスルノ内議北京公使團會議ニ上リ居候由右ハ支那財政ノ窮乏ヲ救フニハ極メテ機宜ノ処置ニ有之候様被存候併シ斯ク増徵サレタル資金ハ漫然之ヲ支那政府ノ一般歲

入ニ組入レス此資金ヲ以テ目下支那政府カ各國ニ對シテ負担スル無担保外債ノ元利金仕払ニ充当スルコトヲ關稅收入ヲ基礎トシテ金五千万元ノ内債ヲ發行シ之ニ依リ塩稅余款ヲ担保トスル内外債ヲ整理セントスル意見有之候由若シ右様ノ意見行ハレタル場合ニハ漫リニ支那内國ノ債權者ニ便利ヲ与フルコトト相成吾々外國ノ債權者ハ益不利益ニ陥ル結果ト可相成且ツ支那財政モ之レカ為メ益々混亂ニ赴クヘキ歟ト被存候ニ付右様ノ意見ニハ御讀同無之様切ニ御願申上候

又右關稅增徵金ハ無担保外債ヲ所有スル各國政府ヨリ公平ニ撰定セラレタル委員ニ特ニ其收支ヲ監督スル方法ヲ御詮議被下候様致度奉存候此段請議旁懇願仕候也

大正十年十一月十四日

92  
10年11月25日（着）在中国小幡公使ヨリ  
朝鮮銀行總裁 美濃部俊吉  
台灣銀行頭取 中川小十郎  
内田外務大臣宛（電報）

## 中國關稅改訂問題ニ關スル我ガ措置方ニツキ

## 意見稟申ノ件

第七五七号

（十一月二十五日北京発）

往電第七四八号ニ關シ

帝國政府案ハ御承知ノ通り八月三日外交團ニ提議シ爾來屢屢督促セルニ拘ラス其ノ儘今日ニ至リタルモノナル處一方我方提案ノ當時既ニ英米仏公使館ハ何レモ六月十八日外交部照会ニ對シ關稅再改訂委員會開催ニ異議無キ旨回答ヲ發シ居リタル折柄ナルノミナラス其ノ後我方提案ニ對シ英國側ハ上海英人商業會議所ニ於テモ多少異議ヲ唱へ次テ英國政府ヨリハ從来ノ方針ヲ変更セストノ回訓アリタル外（十月十五日付機密第三〇九号往信参照）米國公使モ亦本国政府ヨリ略同様ノ回訓ニ接シタル趣ニ付キ差向キ我方提案ノ関スル限り外交團ノ同意ヲ得ル見込専ク一先ツ立消ノ姿ニアリタル次第ニ恐ラク各國公使トモ支那側今回ノ提案ニ付キ改メテ本国政府ニ請訓スルノ段取トナリ十一月二十一日本使發外交團宛回章ニ對シ全部ノ意見出揃フ迄ニハ相当時日ヲ要スヘク將又前顧ノ次第ノ通リ果シテ支那側ノ要求ニ応ス可キヤ否ヤモ亦不明ニシテ外交團トシテ一致ノ態度



四 中国ニ関スル諸問題(三)

二四六

セルニ各全權一同之ニ賛同セリ此ニ於ア「ヒューズ」ハ直ニ分科会委員トシテ「アンダーウッド」ヲ日本側埴原全權其ノ他各国一名宛ヲ指名セリ

尚材料蒐集ニ数日ヲ要スルヲ以テ分科会ノ会期ハ更ニ委員長ヨリ通告スベキガ二十五日ニハ總委員会ヲ開キ支那側ノ申出ニ依リ議題ハ之ヲ治外法權及時間許サバ租借地問題ト為スペキヲ述べ散会セリ

在欧各大使ニ転電シ蘭、西ヘ郵報セリ

94 10年11月28日(発) 内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛(電報)

中国關稅再改訂ニ関スル對処方ニツキ在中国

公使宛訓令ノ件

會議第六九号

(九一文書)

往電會議第四七号ニ關シ

本大臣發在支公使宛第七五八号

貴電第七五七号ニ關シ

現実五分再改訂ノ実施ニ至ル迄暫行的ニ一定律ノ付加税ヲ

課スル事ハ最近我方ヨリ外交團ニ提議シタル處ナレバ元ヨ

リ異存ナキ次第ナルモ右增收額ヲ担保シテ公債ヲ發行スル

會議第七三号

(九一文書)

在支那小幡公使發本大臣宛電報第七五七号要領左ノ通り

八月八日我方提案ハ外交團ノ同意ヲ得ル見込少ク一先ヅ立

消エノ姿ニアリタル次第ニ恐ラク各國公使トモ支那側今

回ノ提案ニ付改メテ本国政府ニ内訓スルノ段取トナリ十一

月二十一日本官發外交團宛我方提案ニ対スル意見開示方督

促ノ回章ニ対シ全部ノ意見出揃フ迄ニハ相當時日ヲ要スル

ベク將又果シテ支那側ノ要求ニ応ズベキヤ否ヤモ亦不明ニ

シテ外交團トシテ一致ノ態度ニ出ヅルコト困難ナラムカト

察セラル

然ル所帝國案ノ趣旨ニ關シテ當時吉田代理公使ヨリ外交總

長ニ説明シ置キタル外支那側今回ノ提案ニ付同總長ヨリ本

官ノ意見ヲ求メタルニ対シ本官ハ付加税案自体ニ対シテハ

帝国政府ニ於テモ異議無カルベキ旨答へ置キタルニ依リ支

那政府部内ニ於テハ恐ラク誤解無キ儀ト思考セラルモ支

那新聞紙中ニハ日本カ真先ニ反対シ居ルガ如ク伝フル者ア

リ

事ハ目下考究中ナルカ本件支那側提議ニ対シテハ付加税ニ依ル增收額ノ利用方法ニ関スル意見ヲ留保シタル上付加税ニ自体ノ關スル限りハ帝國政府ニ於テ異議無キ旨正式ニ回答セラレ差支ナシ尤モ今回支那側ノ提議ニ依レバ再改訂問題ハ当初ノ提案ニ從ヒ飽ク迄戰後二年ノ約束ニ依リ之ガ實施ヲ督促スヘキ意向ヲ有スルモ其解決遷延シ居ル為之力実施ニ至ル迄暫行的ニ付加税ヲ提議シ来リタルモノト認メタル處此際我方ニ於テ支那側付加税案ヲ無条件ニ承認スル時ハ可成再改訂ノ実施ヲ延期セントスル我方当初ノ目的ヲ達シ得サル虞アルニ付前記回答中ニ於テ帝國政府ニ於テハ今後物価ガ一般ニ安定ヲ保ツ時期ニ至ル迄必ス再改訂ノ実施ヲ延期スヘシトノ了解ノ下ニ支那側提議ノ付加税ヲ承認スルモノナリトノ趣旨ヲ付言シ置カルル様致シタシ尚外交團ニ對シテハ前記回答ノ趣旨ヲ通告シ置カレタシ本電参考ノ為上海總領事ヘ転電アリタシ

95 10年11月28日(発) 内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛(電報)

中国關稅再改訂ニ關スル在中国外交團宛我方

方提案ニ關スル件

96 10年12月1日(着) ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

第一回關稅問題分科会ノ議事詳報ノ件

會議第一一七号 (十一月三十日ワシントン発)

十一月二十九日極東問題關稅關係第一回分科会開会

出席者米 Underwood 英 Sir Robert Borden 仏 Sarraut

伊 Albertini 白 Carter 蘭 Blockland 葡 Captain Vas-

concellos 支、顧維鈞 日、埴原

委員長「アンダーウッド」ハ本件ガ支那全權ニ依リ提起セ

ラレタルニ顧ミ先ヅ以テ顧全權ニ何等提議アラバ之ガ提議ヲ促スヲ適當ト認ムル旨ヲ述ベタルニ支那全權ハ第一關稅

自主權ノ回復ヲ理想トスルモ第二差当リ一千九百二十二年一

月一日ヨリ税率ヲ現実一割二歩五厘ニ引上げ又第三各國ノ

同意スル或年限ノ後ニハ一定ノ最高率ヲ定メ其範囲内ニ於

テ自由ニ税率ヲ定メ得ルコト為シタキ旨前提シ

一、輸入税ノミヲ直ニ現実一割二歩五厘ト為スコト

二、支那ハ一千九百二十四年一月一日ヨリ釐金ヲ廢止スルニ付同日ヨリ各國ハ一千九百二年ノ英支條約一千九百三年ノ米

支條約及日支條約ノ規定ニ從ヒ支那ガ輸入及輸出税ニ或

ル付加税ヲ課スルコトヲ承認スルコト尚各國ハ支那ガ同國ヨリ奢侈品ニ対シ一割二分五厘ノ上ニ更ニ付加税ヲ課スルコトヲ承認シ此他ノ事項ニ關シテハ前記条約ノ規定ニ従ヒ處理スルコト

三、本協定後五年以内ニ最高率ヲ従価二割五歩ト為シ其範圍内ニ於テ支那ガ自由ニ輸入税ヲ定メ得ルコト而テ右ハ左ニ述ブル第五項ノ期間実施スルモノトス

四、陸境關稅ノ輕減ハ之ヲ廢止スルコト

五、關稅其他課稅ニ關スル現行條約ノ規定ハ本協定ノ日ヨリ十年後ニ全廢スルコト

六、稅關ノ現制度ニハ根本的変更ヲ加ヘザルコト及關稅收入ノ費途ニ付テハ外債ニ累ヲ及ホサザル事

ノ六項ヲ提議シタルニ対シ委員長ハ議事方法トシテ關稅增收問題ヲ詮議スベキヤ將又釐金其ノ他ノ問題ヲモ合セテ議ス可キヤニ付討議シタル處日本委員ハ本委員會ハ支那ノ財政援助ヲ目的トシテ關稅增收ヲ議セントスルモノト了解ス委員長ノ意味ハ支那側提案タル即時一割二分五厘稅實施ニ關スル案ヲ議セントスルモノナリヤ又ハ之レヲ議スルニ付先ヅ支那政府財政上ノ所要額ヲ議セントスルニアリヤト質

ベク同院ニハ外國顧問ヲモ有スルヲ以テ便利ナルベク他面海關ノ援助ヲモ請フコトアルベシトテ英ノ意向ヲ迎フルノ態度ヲ示シタルガ日本委員ハ支那ノ財政援助ノ為メノ關稅引上げニハ大イニ同情スルモ對支貿易ハ日本ノ重大ナル「インテレスト」ナルヲ以テ現行稅額ヲ數倍センガ如キ提案ニハ到底同意シ難シ且ツ日本ハ千九百三年條約ニ依リ或ル程度關稅增徵ニ主義上同意セルモ支那ハ特定ノ条件ヲ履行スルヲ要スルモノト認ム而シテ今直チニ増率ヲ實行センスルニハ長日月ヲ要シ本會議ニ於テ之ヲ議スルハ適當ニ非ズト認ム故ニ此ノ際ハ現行稅率ノ上ニ一樣ニ或ル程度ノ付加税ヲ課スル方實行上適當ナラント提議シタルニ委員長ハ日本ガ付加税ヲ課スルニ同意スル意味ハ支那ニ五分以上例ヘバ一割二分五厘程度迄徵稅ヲ認メントスルノ意ナリヤ又支那ハ現在總テノ貨物ニ一樣ノ率ヲ課スル様余儀ナクセラレ居ルモノナルガ支那ヲシテ品種ニ応ジ差別アル稅率ヲ設ケシムルノ意ナリヤトノ質問ヲ為シ仏委員ハ先ヅ稅率引上ヶ問題ノミヲ切り離シテ議セントスルハ適當ニ非ズ釐金撤廃其ノ他ノ問題トノ關係ヲ併セ研究スルヲ適當ト信ズト述

問シタルニ委員長ハ支那側ハ今日ハ關稅自主權ノ如キヲ要求スルニ非ラズ鞏固ナル政府ヲ樹立シ財政上ノ安定ヲ計爾ニハ增稅ヲ要スルヲ以テ條約ノ變更ヲ要求セルモノト解ス故ニ增稅ノ必要アリヤ否ヤヲ詮議センカ又ハ釐金問題等ヲモ合ハセテ議ス可キヤト云フ意味ナリト說明ス支那委員ハ支那ノ要求ハ一般的ニ将来ノ必要ニ應ゼントスルモノニシテ此ノ際支那財政上ニ幾何ノ金額ヲ要スルカヲ説明スルヲ要ストセバ財政一般ノ研究ニ入ルコトトナリ本分科会ニ於テ斯ノ如キコトヲ議シ財政上ノ困難ヲ暴露スルハ支那財政ノ所要ヲ研究シ之レニ依テ關稅增徵ヲ議セントスルガ如キハ支那ノ為ニ迷惑ナルベキハ勿論諸外國ニ取リテモ支那ノ財政ノ所要アル毎ニ關稅增徵ニ應セザル可ラザルガ如キ主義ヲ立ツルガ如キ嫌アリテ危險ナリト述べ次ニ英ハ支那ノ一割二分五厘稅ノ要求ハ條約上釐金ト關係アル處是レガ廢止ハ可能ナリヤ又增收額ノ用途如何ヲ質シタルニ対シ支那委員ハ關稅ノ增收ハ公共的事業例ヘバ道路ノ改善衛生設備等ニ使用ス可ク又恐ラク一部分ハ外債償還ニモ使用セラル可シ而シテ其ノ用途ニ付テハ審計院ニ於テ充分監督ヲ為ス

ベ次イデ日本委員ハ委員長ノ前記質問ニ答へテ付加税ヲ申出デタルハ支那ガ目前ニ要スル經費支弁ノ為ニ必要ナル資源ヲ得ルニ最モ簡易ナル方法ナリト認ムルニ依ルモノニシテ付加税ナレバ一割二分五厘程度迄モ増徵シテ可ナリト云フガ如キ意味ヲ閃メカシタルモノニ非ズ幾許ノ付加税ヲ課スベキヤハ別ニ考究ヲ要スル問題ナリト述べ葡國委員ハ支那ノ要求ハ收入增加及條約改訂ノ二点ニ在リト認ムル処現実五分ニ改訂方ハ問題ナキモ稅率引上げハ時日ヲ要シ條約改訂ハ國際關係モアリ实行困難ナリ故ニ日本側提議ノ如ク付加税案ヲ適當ト認ムト述ブ

次デ伊國委員ハ日本ハ幾何ノ付加税ヲ認メントスルモノナリヤト質問シタルガ之ニ次デ英國委員ハ〔〕日本委員ノ説ハ現実五分再改訂問題トシテ議スルモ可ナルヘキモ〔〕直ニ輸入稅ヲ現実七分五厘ニ引上げルコトシ（白委員ノ問ニ答へ右ハ釐金廢止ヲ条件トセスト答フ）〔〕四ヶ年後ニ至リ釐金廢止ヲ条件トシ一割二分五厘稅トナスコトトシ右ニ付討議シテハ如何トノ提議ヲナシタリ次デ日本委員ハ前記伊國委員ノ問ニ答へテ付加税案ヲ提出セルハ其ノ実施ノ容易ナ

タル上述ブヘク恐ラク次回委員会ニ於テ披露スキ旨陳べタルニ対シ伊国支那両委員ハ頻リニ日本ノ認メントスル付加税率ニ付糸所アリタルニ付日本委員ハ本国ヨリノ報道ニ依レバ最近北京政府ハ現行税額ノ上ニ其ノ二割五分ノ付加税ヲ課シ之ニ依リ五千万元ノ公債ヲ発行シタシト提議シ来レル趣ニテ恐ラク他国政府ニモ同様ノ提議ヲナシタルモノト認ムル所自分ハ今日税率ノ問題ニ付何等「コンミット」スルヲ欲セザルモ右ノ程度ナラバ日本ハ同意スルモノト思考スル旨陳ベタルニ支那委員ハ伊国委員ト共ニ現行税額ハ現実三分五厘ニ過キサルヲ以テ之ヲ現実五分ト為スニ

於テハ其ノ四割二分八厘ヲ増額シ得ル計算ナリ從テ二割五分ノ付加税ハ現実五分ノ範囲以下トナリ今日ノ會議ノ趣旨トハ余リニ懸隔アリト主張ス次テ委員長ハ散会ニ先タチ一言セムトテ支那ハ米国ニ取リテ一大輸出市場ナル故ニ鞏固ナル政府ノ樹立及維持ハ經濟的活動ヲ大ニ助クルモノト謂フヘク從テ之ニ要スル刺激トシテ関税率ノ増加ヲ認ムルハ独リ支那ノ利益ノ為ノミナラス關係各國ノ為ニモ利益ナルヘク少クトモ米国ノ関スル限りハ相当引上ケニ異議ナク但シ税率ハ各国ニ対シ均等ナルコトハ其ノ最モ重キヲ置ク所

三、釐金全廢ト同時ニ一割二步五厘ニ改訂スルコト但其時期ハ現在ノ状況ニ鑑ミ今日之ヲ定メ難シ

右ニ対シ委員側ニ一二ノ質問応答アリタル後委員長ハ別ニ異議ナケレバ決議案ノ提議ヲ試ミタシト述べタルニ付日本委員ハ大要左ノ趣旨ニ基キ陳述ヲ為セリ

一、日本ノ対支貿易及支那ノ対日貿易額ハ夫々両国對外貿易ノ三割以上ヲ占ムルヲ以テ関税ノ引上ハ他国ニ比シ最重要ナル關係アリ

二、日本ノ対支輸出品ノ多クハ支那下層階級民ニ依リ需要セラレ而テ又日本ノ多数ナル比較的小製造家ノ生産ニ係ル

三、故ニ支那ノ提議ノ如キ急激重大ナル増税ハ一面支那下層人民ノ生活費ヲ増加シ他面日本ノ商工業ニ非常ノ影響ヲ与フ從テ關稅ノ引上げハ漸進的ナルベク供給者、需要者ノ經濟的生活ニ対シ急激ノ変化ナカラシムルヲ要ス

四、右ノ理由ニ依リ日本ハ現行税額ヲ倍加以上トナス七分五厘案ニ同意スル能ハズ一割二分五厘案ノ如キハ言ヲ俟タズ

ナリト述へ尚關稅ノ負担者ハ直接ニハ輸入者ナルモ結局ハ消費者ナリ故ニ余リニ高率ニ過キサルヲ要スヘキハ勿論ナレト仮リニ日本ト支那トハ相隣接シ最モ關係深キモ七分五厘程度迄ノ引上ケハ為ニ何レノ國ノ貿易ニモサシタル悪影響ヲ及ホスコト無カルヘシト説キ散会次回ハ明三十日午後開会ノ筈

在歐州各大使ヘ転電シ葡、西ヘ郵報セリ

97 10年12月4日（着）ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

#### 第二回關稅問題分科会ノ議事詳報ノ件

會議第一二四号

十一月三十日午後三時半極東分科会關稅問題第二回開会壇原全權代理トシテ小田切顧問出席其他出席者第一回ノ通開会ノ初頭ニ於テ英國委員ハ昨朝ノ意味ヲ明白ニスベシトテ左ノ通述ブ

一、明年ヨリ現実五歩税ニ改訂ス

二、一千九百二十六年ニ再改訂ヲ行ヒ現実七歩五厘トス此場合ニ於テ支那ガ欲スルナラバ煙草、酒類等ニハ更ニ高率ヲ課スルモ可ナリ

バ何等異議ナキモ改訂ノ為少クモ半年動モスレバ一年ヲ要スルノ不便アルニ付日本ハ此ノ不便ヲ避ケ且支那政府ノ利益ト為ル可キ代案ヲ提出セントス

六、即全般ノ關稅ニ対シテ直ニ或程度例ヘバ三割ノ付加税ヲ課スルニ在リ其結果ハ約二千万弗ノ收入ヲ齎スベシ輸入税ヲ現実五分ニ改訂ノ結果ハ約一千五百万弗ノ增收ニ過ギズ然カモ此付加税付加ハ敢テ新シキ試ニ非ズ現ニ飢饉救濟付加税ノ例アリ

七、云フ迄モナク日本ハ絶対且永久ニ輸入税ノ増加ニ反対スルモノニハ非ルノミナラズ千九百三年ノ追加日支條約ニ依リ關稅率ヲ改訂シ以テ支那政府ヲ援助スルノ覺悟ヲ有ス

八、關稅增收ノ難問ヲ解決スル為關係列国委員ヨリ成ル支那ノ關稅釐金及之ニ關連スル事項ノ調査委員会組織案ノ如キ提議アラバ日本ハ之ニ対シ何等ノ異議ヲ有セズ

支那委員ハ之ニ対シ過去ニ於ケル各國稅率ノ状況等ヲ引証シテ稅率引上ヲ希望スルノ不当ナラザル旨ヲ縷述シ且一割二步五厘税ト為スモ支那内地消費者ハ勿論日本工業家ニ對シテモ惡影響ナキモノト思考ストテ反対ノ意ヲ表シタルガ

四 中国ニ関スル諸問題（三）

二五二

日本委員ハ右ニ対シ反駁スルトコロアリ且急激ニ現実七歩五厘ノ率ヲ課セラルル場合ニハ日本ノ工業中ニハ直ニ工場ヲ閉鎖セザルベカラザルモノアリト述べ白国委員ハ関税ハカルベキコトヲ述べ各国ノ同意アラバ英國案ニ贊同スルカノ如キ態度ヲ示シ米国委員ハ曩ニ決議案ヲ提議セムコトヲ述べタルモ新提案アリ會議ノ形勢昨日ト稍々異ルトコロアルヲ以テ姑ク之ヲ見合ハスベシト述べ支那委員ニ対シ更ニ何等意見ナキヤト促シタルニ対シ支那委員ハ英國委員ノ提案中七歩五厘改訂迄ハ七歩五厘ニ相当スル付加税ヲ課スルコトニ変更ヲ加フルニ於テハ之ニ同意スベシト述べタルニ英國委員ハ右ニテモ差支ナシト述べ

次デ仏国委員ハ支那委員ニ依リ変更セラレタル英國案ニ同意スベキモ奢侈品ニ定率以上ノ付加税ヲ課スルコトニ付奢侈品ノ解釈困難ナル結果各国商品ニ対スル課税均等ヲ得ザル結果トナルベシトテ此点ニ付反対シ又支那ノ現状ニ於テハ内地税ノ大部分が地方政府ノ手ニ帰シテ中央政府ノ收入トナラザル事情ヲ指摘シ關稅增收ノ用途ノ確保ヲ必要トス

98 10年12月4日（着） 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

中國關稅ノ改訂問題ニ關スル腹案ニツキ回電  
關稅引上ニ反対スル日本ノ態度ニツキ中國外  
交總長ヨリ抗議ノ件

第七八二号

（十一月三日北京發）

中國關稅ノ改訂問題ニ關スル腹案ニツキ回電  
方稟申ノ件  
會議第一三三二号  
往電會議第一二四号ニ關シ  
關稅問題ニ付テハ

第一、現実五分改訂ヲ限度トスル主張ヲ維持スルコト

第一、調査研究ノ必要並関係條約國中今回ノ會議ニ參列セタルモノアルコトヲ理由トシテ具体的の決定ヲ為スヲ避ケ其ノ代リトンテ

（一）可成早ク北京又ハ上海ニ於テ關係國全部ノ会合ヲ催シ支那財政援助ノ趣旨ヲ以テ七分五厘案ヲ基礎トシテ關稅引

上ヲ商議スルコト

（二）右商議決定迄ハ現実五分ニ相當セシムル程度ノ付加税ヲ課スルコト

第三、協定税率ヲ七分五厘ニ改訂スルコトヲ承認スルモ引上ノ影響ヲ緩和セシムル理由ヲ以テ約三年後ニ之ヲ実施スルコトシ夫迄ハ現実五分ニ相當セシムル程度ノ付加税ヲ課スルコト但シ抵代税ハ二分五厘トス

ノ三案ヲ考へ居レリ右ノ内第一案ハ余議ノ大勢ニ鑑ミ支那

分ノ贊助ヲ与ウル様電訓相煩ハシ度ク右ニ關シ何分ノ儀御

回答ニ接シ度キ旨照会シ來レリ

上海ヘ暗号ノ儘郵送セリ

99 10年12月6日（着） ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

四 中国ニ關スル諸問題（三）

二五三

ルコトヲ述べ國庫証券支払ニモ論及シ其ノ用途ノ計画ヲ支那委員ヨリ提出セんコトヲ希望シタルニ支那委員ハ之ヲ承諾シ伊國委員ハ關稅ノ改正ハ各國貿易ノ利害關係ト共ニ支那側ノ見地ヨリモ考慮スルヲ要ストシ日支双方ノ意見ノ中間ニ決シタシト述べ英國委員ハ支那委員ニ対シ七步五厘改訂ノ增收アラバ其ノ政費ヲ充スニ足ルヤ否ヤヲ確メタル上改メテ往電會議第一一五号中ノ英國案ノ通り提議シタルニ日本以外ノ各國皆之ニ同意セリ委員長ハ米國委員トシテ英國ノ提案ニ同意ナルコトヲ述べタル後成ルベク全会一致ノ成案ヲ得テ委員總会ニ報告シタキモ已ムヲ得ザレバ少數意見ヲ付シ報告スベキ旨ヲ述べ日本委員ノ之ニ対スル意見ヲ徵シタリ依テ日本委員ハ今日ハ之レ以上意見ヲ述べ難シト答ヘ日本側ノ意向決定ヲ俟ツ意味ヲ以テ次回ノ期日ハ委員長ヨリ追而通告スルコトトシ散会尚本件ニ關スル當方意見ハ追テ電報スヘシ

在歐各大使ニ転電シ在蘭、西各公使ヘ郵報セリ

編註 本電ハワシントン會議全權發内田外務大臣宛電報會議第

一一七号（本事項九六文書）ノ要約ナルニツキ省略

援助ノ誠意ナキモノトシテ非難セラルノ虞アル可キヲ以テ本案主張ニ就テハ右ノ点ニ付覺悟ヲ要スベキハ勿論ナリ第二案ハ各委員ヲシテ採択セシムルコト困難ナルベキモ一一致ノ決定ヲ見ザル場合ノ我国ノ立場ニ不利ヲ來スコト比較的尠カ爾可ク第三案ナラバ或ハ各国ノ一致ヲ見ルヲ得可シ本件ニ就テハ我国内ノ輿論ニモ重大ノ關係ヲ及ボスコトナルベキニ付篤ト御詮議ノ上至急何分ノ御回電相成タシ尚何レノ問題ニ付テモ我独り回答ノ遷延スルハ會議ニ於ケル我立場ニ不利ヲ及ボスコト尠カラザル点特ニ御考慮ヲ仰ギタシ為念

100 10年12月7日（着）ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

#### 開税及ビ裁兵問題ニ關シ小田切、ボーデント

##### 会談ノ件

##### 會議第一四四号

（編註）往電會議第一二二号末段ニ關シ

小田切ハ十二月三日先方ノ希望ニ依リ「サー・ロバート・ボルデン」ト開税問題ニ付腹藏ナキ私的意見交換ノ為メ会見セルガ其ノ会談要領左ノ通

必要アルヲ述ベタルニ「ボ」ハ分科会ニテ增收入ヲ建設的公共事業等ニ使用スル為ニear-markス可シト述ベタルモノノ意ニ出テタリト答ヘ小田切ハ進デ支那財政ニ対スルノ脅威ハ外債支払ノ圧迫ニシテ今明年中ニ満期トナル外債元金壹億二千万弗アリ（開税塩稅担保ノ分及交通部借款ヲ除ク）是レガ対案ノ如キハ刻下ノ大問題ナリトテ長期公債案ヲ提出シ更ニ根本的救済策トシテハ督軍廃止ノ断行ニアル旨縷述セルニ「ボ」ハ右所説ヲ傾聴首肯シツツ督軍ノ廢止及裁兵ノ難否並其ノ所要費用ニ付質問スル所アリタルニ依リ小田切ハ督軍廃止及裁兵ハ中央政府支那一般民衆ノ切望スル所ナルモ現状ニ於テハ彼等自身ニ於テ遂行スルノ望ミナシ外國側ノ忠言モ其効果又予測スルコト難キモ専モ其ノ忠言ハ一般民衆ノ歓迎ヲ受ケ督軍等ニ大ナル打撃ヲ与ヘ裁兵問題ノ一経路ヲ与フベク裁兵ハ從来各省ニテ濫用セシ傭兵費ヲ転ジテ中央政府ノ収入トナスヲ得ベク平時ノ素質ニ微シ彼等ニ相当ノ給与ヲナサバ解散スルモ争乱ヲ起サズルヘク而シテ大部分ノ裁兵ニ要スル費用ハ約一億万弗ニテ足ルヘシトテ右ニ關スル事情ヲ詳述シタルニ「ボ」ハ然ラバ今回ノ會議ヲ利用シテ裁兵ノ得策ナルコトニ関シ何等ノ

形式ニ於テ決議シテハ如何ト語レルニ付小田切ハ其ノ元ヨリ可ナルヲ陳べ開税增收ノ用途ニ關シテハ別ニ私案アルヲ以テ次回ノ分科会ニテ披露シタキ意ヲ洩セルニ「ボ」ハ右提出前ニハ一応内示方承諾アリタキ旨ヲ請ヒ又從来「アンダーウッド」ト會議前会談セラレタル事ナキニ於テハ一度私的会見ヲ試ミラレテハ如何同意ナラバ自分ヨリ同氏ト打合セスベシト懇談セルニ付小田切ハ「ア」トノ会見ハ其ノ最モ希望スル所ナルニ付然ルベク配慮方申出置ケリ尚ホ本日ノ会見ニ於テ「ボ」ハ小田切ニ對シ何等英國案ニ贊同ヲ求ムルガ如キ口吻無カリシモ小田切ハ之ヲ以テ「ボ」ガ英國案ニ変更ヲ加ヘントスルノ意志アルモノト觀察スルハ早計ナルヘシトノ意見ナリ

在欧各大使ヘ転電セリ

101 10年12月10日 開議決定

（編註）本電ハワシントン會議全權發内田外務大臣宛電報會議第一二四号（本事項九七文書）ノ要約ナルニツキ省略

小田切ハ「ボルデン」ノ問ニ答へテ日本ガ分科会ニ於テ英国资ニ賛成スルヲ躊躇セルハ全然經濟上ノ理由ニ基クモノナリ即チ日本産業中綿糸工業ハ重要ナル地位ヲ占メ然モ海外輸出綿糸ノ約九割ハ支那市場へ向ケラルモノナルガ近税ノ急激ナル引上ハ日本ノ同種工業ニ甚大ナル影響ヲ与フルヲ顧慮スルニ依ルモノナリ然レドモ日本トテ永久ニ支那開税ノ改正ニ反対セントスルモノニ非ズトノ趣旨ヲ述ベタルニ対シ「ボ」ハ綿糸工業ニ付テハ英國モ同様ニテ現ニ「マンチエスター」工業家モ支那開税引上ヲ希望セズ又印度工業モ日本ト同等ノ地位ニアルモノト思考スルモ「アンダーウッド」ハ支那中央政府ヲ鞏固ナラシムルニハ相當ノ歳入増加ヲ必要トスト主張シ其ノ結果増率案ヲ提出セルモノナリト説ケルヲ以テ小田切ハ更ニ其ノ智識経験上ヨリ日本紡績業ノ事情ヲ述べ昨日日本工業家ノ意見ヲ求ムル為打電セル旨ヲ語リ今後四年間ハ現実五分トナシ其ノ後七分五厘ニ引上グル案ハ私見トシテハ考量ノ価アリト考フルモ之レトテモ日本ガ同意スルヤ否ヤ不明ナリト述べ更ニ中央政府ト督軍トノ関係ヲ説キ增收ノ用途ニ對シテハ嚴重監督ノ

#### 四 中国ニ関スル諸問題（三）

二五六

ヘキ付加税案ヲ提起シ已ヲ得サル場合三ハ現実五分再改訂ヲ承認スルコトシタキ旨閣議決定ノ次第アリ右ニ基キ折衝ヲ重ネ來リタル處本件未タ解決ヲ見サルニ偶今回華府會議ニ於テ支那全権ヨリハ「成ルヘク速ニ現実七分五厘ニ改訂シ」（トヨタ）差当リ約七分五厘ニ相当スル收入ヲ得セシムル為直ニ付加税ヲ課スルコト<sub>（トヨタ）</sub>抵代税ハ二分五厘ノ儘トスルコト<sub>（トヨタ）</sub>一割二分五厘ノ改訂ハ釐金全廃シタルトキ之ヲ行フコト<sub>（トヨタ）</sub>税関ノ現制度ハ之ヲ変更セザルコトノ提議アリ同會議極東委員会支那關稅分科会ニ於テハ各國委員全部ニ賛成シタルモ我委員ニ於テ同意ヲ表セサル為該分科会ハ一時休会シテ我意向ノ決定ヲ俟ツコトナリタリ

我委員ハ該分科会ニ於テ對支貿易ニ於ケル我國ノ地位ヲ力説シテ現行税率三割付加税説ヲ主張シタルモ未タ各國委員ノ容ル所トナラサル趣ナルカ右我方ノ主張容レラレサルニ於テハ現実七分五厘説ヲ承認スルノ已ヲ得サルモノアリト認メラルニ付我國モ之ヲ承認スルコトシ唯「（トヨタ）」（トヨタ）對支貿易上急激ナル影響ヲ防止スル趣旨ヲ以テ其ノ実施期ヲ相当年限例ハ三年乃至五年後トナシ「（トヨタ）」右実施ニ至ル迄ノ措置

至五年後ニ於テ実施シ（第二）右実施ニ至ル迄ノ措置トシテ直ニ現行税率ニ対シ其ノ三割乃至五割迄ノ付加税ヲ認ムルコトシ更ニ（第三）右現実七分五厘税実施ノ目的ヲ以テ關係国（支那ヲ含ム）ハ成ルヘク速ニ改訂準備委員会ヲ北京又ハ上海ニ開催シ該委員会ヲシテ税率ノ算定税目ノ分類ヲ議定セシムルノ外關稅收入ノ保管及監督並增收額ノ用途等ノ問題ニ付關係国ノ對支貿易關係ヲ考量シタル均等主義並支那現下ノ実情ニ基キ具体案ヲ攻究セシムル様會議ノ了解ヲ得ルコトニ定メ既ニ閣議ノ決定ヲ経タルニ付貴官ハ右帝國政府ノ方針ニ基キ可然御措置アリタシ尤モ前顧我方針第三ニ闇シ我方ニ於テハ支那政情ノ安定ヲ切望スルノ余リ其ノ財政ノ安固ヲ計ラシメムカ為本邦對支貿易ノ蒙ルヘキ大打撃ヲ忍ヒテ今回ノ關稅引上ヲ承認スル次第ナルヲ以テ右增收額力事実支那ノ改善ニ要スル経費ニ充當セラルルコト極テ必要ニシテ從テ右用途如何ノ問題コソハ帝國政府ノ最モ重ヲ置ク所ナルカ貴電會議第一一七号支那委員ノ説明ノ如ク增收額ヲ公共事業ニ使用スト云フカ如キハ支那現下ノ実情ニ照シ到底信スルニ足ラス又審計院外國顧問ノ監督ノ如キハ何等有効ノ結果ヲ挙ケ得サルハ多年ノ経験ニ徵

トシテハ現行税率ノ三割乃至五割迄ノ付加税ヲ認ムルコトシ尚<sub>（トヨタ）</sub>關係各國ニ於テ改訂準備委員会ヲ成ルヘク速ニ北京又ハ上海ニ開催シ該委員会ヲシテ税率ノ算定税目ノ分類等ヲ議定セシムルノ外關稅收入ノ保管及監督並ニ增收額ノ用途等ノ問題ニ關シテモ各國ノ對支貿易關係ヲ考量シタル均等主義並支那現下ノ実情ニ基キ攻究セシムルコトトスルノ方針ヲ以テ帝國全權ヲシテ折衝セシムルコト致シタシ右閣議ヲ請フ

102 10年12月10日（発）内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛（電報）

中國關稅ノ引上ニ關スル政府ノ方針ニツキ訓  
令ノ件

會議第一五四号（至急）  
貴電會議第一一二号及第一三三号ニ關シ

現行税率三割付加税ニ關スル我方ノ主張ハ今日到底會議ノ承認ヲ得難キモノト認メラルニ付政府ニ於テハ現実七分五厘ニ關スル英國案ヲ承認スルニ決シタルモ同時ニ之カ為本邦對支貿易上ニ及ホスヘキ急激ナル影響ヲ緩和スルノ趣旨ヲ以テ（第一）右七分五厘税ハ之ヲ相當年限例ハ三年乃

シ疑ヲ容レス從テ關稅增徵ノ為北京政府ノ軍費政費ヲ豊富ナラシメ自然内乱ヲ長引カシムルコトナリ關稅引上ノ結果ハ其実却テ支那國民ノ不幸ヲ來スカ如キコトナラサル様注意スルヲ要スト思考セラルニ付此点ハ會議ニ於テ十分力説シ置カレタシ將又「（トヨタ）」右用途ニ關スル将来ノ保障ニ付テ此際予メ關係國間ニ於テ安全ナル方途ヲ講シ置クコト<sub>（トヨタ）</sub>今後海關制度ノ運用例ハ「カストディアン・バンク」ノ範囲及本邦人海關官吏ノ割合等ニ付我對支貿易關係ヲ考慮シタル均等主義ニ基キ適當ニ之ヲ「アヂヤスト」スル等適宜ノ方法ヲ講ジ以テ七分五厘引上ノ結果總稅務司カ事實上支那財政ノ管理權ヲ掌握スルニ至ルヘキヲ事前ニ防止スルコト<sub>（トヨタ）</sub>元來本邦對支輸出品ハ歐米品ニ比シテ低級品多ク然モ支那國內ニ於テ之カ競爭品ノ製造工業盛ニ勃興シツツアル所今回ノ關稅引上ニ際シ何等支那國內ニ於テ洋式機械ヲ以テ製造セラルル工業製品ニ對スル現行出廠稅（生產稅）ノ増率提議セラレサル結果關稅引上ノ為ニ蒙ルヘキ對支貿易上ノ打擊ハ我國ニ最モ重ク歐米ニ輕カルヘキ実情ニ鑑ミ改訂ニ因ル負担增加ノ公平ヲ期スルノ趣旨ニ基キ新稅率ノ算定及新稅目ノ分類ニ當リテハ差等稅主義ニ依リ其ノ稅率ヲ

奢侈品高級品ニ高ク必需品低級品ニ輕クスルコトノ三点ハ共ニ今回ノ會議ニ於テ決定シ置キ度キ所ナリト雖モ英國提案中ノ海關現制度ヲ變更セサル点ハ英國ニ於テ特ニ重要視スル所ナルヘク又差等税ニ付テハ仏國側ニ於テ異論モ之有ルヘキ事情ニ鑑ミ此際之ヲ我方ヨリ七分五厘税承認ノ条件トシテ提議スルコトナク前頭改訂委員会ノ權限中ニ包含セシメ之ヲ同委員会ニ於テ主張スル方得策ト認メラルニ付テハ貴官ハ右御含ヲ以テ出来得可クンバ右改訂委員会ニ於ケル我方ノ目的貫徹ノ為予メ有利ナル素地ヲ作り置ク様適当ノ措置ヲ執リ可成ハ之ヲ議事錄ニ留メ置ク様御尽力アリタシ尚又前頭我方針第二現実七分五厘実施ニ至ル迄ノ付加税率ヲ現行税率ノ三割乃至五割トスル我方付加税案ハ我方ニ於テ承認シ得ヘキ増税率ノ最大限ヲ示スモノニシテ右ハ我對支貿易ニ対スル急激ナル影響ヲ緩和スルカ為極テ必要ナルヲ以テ貴官ハ暫行的増税率カ右ノ限度内ニ於テ決セラル様最善ノ努力ヲ用ヒラレタシ尤モ我方付加税案ニ代へ現実五分再改訂ヲ行フトスルモ一九一七年乃至一九年又ハ一九一七及一八年ノ平均価格ヲ標準トスル場合ニハ現行税率ニ対シ其ノ約三割五分増一九一九年又ハ一九二〇年ヲ標

第八〇二号

(十一月十日北京発)

往電第七九八号ニ關シ

支那關稅問題ハ結局幾分ノ引上ヲ見ルニ到ルヘキコトト存セラルル處右引上ニ依ル增收額ニ対シ使途監督方法ヲ講スル必要アルハ英國側其ノ他ニ於テモ夙ニ之ヲ認メ居レル次第ナルカ英國側トシテハ當然之ヲ總稅務司ノ監督ノ下ヘ置クカ如キ提案ヲ為サストモ限ラサル義ト思考セラルモ御承知ノ通り總稅務司ハ現在ニ於テスラ過大ノ權限ヲ有シ英國側ハ同人カ支那ノ行政官吏タル身分ヲ利用シ之ニ依リ財務行政上ニ牢乎タル勢力ヲ扶植セムトスル傾向顯著タル様看取セラルニ就テハ關稅引上ト共ニ特ニ右ノ点ニ御留意ノ上往電(九二文書)

此際關稅收入ヲ香上銀行ノ獨占的保管ヨリ各銀行ニ配分預入ルルコトハ最近六百万両引出問題ノ苦キ経験ニ顧ミ支那ハ總稅務司ト香上トノ結合ノ支那財政上ニ及ス勢力ヲ牽制スルノ効果アルヘキカト思考ス

四 中国ニ關スル諸問題（三）

準トスル場合ニハ夫々五割又ハ六割増見当ノ計算トナル次第ナルヲ以テ我方付加税案三代ヘ現実五分再改訂案ノ提起アリタル場合ハ右ノ御含ニテ現実五分案ニ賛成セラレ差支

ナシ尚現実七分五厘税ノ改訂ニ付テモ其ノ標準年度ノ取り方ニ依リテハ前記ノ如ク増加率ニ差異ヲ生スル次第ナルニ付此等ノ点ハ成ル可ク改訂委員会ヲシテ審議決定セシムル様致シタキモ万一一回ノ會議ニ於テ決定スルコトモナラハ一九一七年及一八年ノ二ヶ年又ハ一九一七年乃至一九年ノ三ヶ年ノ何レカノ平均價格ヲ以テ標準トスル方我方ノ利益ナルニ付御含アリタシ尚抵代税ヲ輸入税ノ二分ノ一トスルコトハ現行條約ノ規定スル所ナルモ右ハ英國案ノ如ク之ヲ増率スルコトナク從価一分五厘ノ儘ト致シタシ此点御含迄

在歐各大使ニ転電シ在蘭、西各公使ヘ暗号ノ儘郵送アレ

編註 本事項一〇〇文書編註参照

104 10年12月12日（着）ワシントン會議全權ヨリ  
中國關稅問題ニ關シ至急回訓方稟請ノ件

會議第一七一号（至急）  
往電第一三三号ニ關シ關稅問題ニ付テハ非公式會談ノ都合モアリ「ボルデン」ヨリ再三督促ノ次第モアルニ付大体ノ方針ノミニテモ至急回電アリ度シ尚会議全体ノ趨勢上止ムヲ得ザルモノアルヲ認ムル場合ハ前頭往電第一三三号第二案ニ基キ然ルベク措置スルコト致シ度キニ付右予メ御承知置キアリ度シ

105 10 10年12月13日（着）ワシントン會議全權ヨリ  
中國財政救濟問題ニ關シアンダーウッド・小田切会談ノ件

會議第一八二号（至急）  
往電第一七一号ニ關シ  
關稅問題ニ就キ十二月九日小田切ハ「アンダーウッド」ト約二時間余会談セル處先方ハ此際支那財政救濟上何等カ具體的協定ヲ為シタキ旨ヲ切言シ第一陸境關稅輕減率ハ之ヲ

二五九

廃止シタク英國側ハ既ニ右ヲ承認シ居リ仏國側モ多分反対ナカルベキヲ語リ第二閑稅引上ニ依リ日本ノ最影響ヲ受クベキ綿糸其他ノ商品ニ對シテハ一時ニ増率セス漸次ニ増率スル方法ヲ執ルコト第三輪出稅ヲ増率スルコトハ英米側トモ反対ナルニ付閑稅全体ニ付加稅ヲ課スルコトトセズ輸入稅ノミヲ差当リ直ニ現実五歩ニ相当スル程度ノ付加稅ヲ課

スルコト第四閑稅引上率等ハ大体当地ニ於テ協定スルコト第五委細ハ北京ニ於テ協定スルコトヲ述ベタルガ小田切ハ右ニ對シ第一ハ日本ニ於テモ多分好意的考慮ヲ加フベク第二ハ尚研究スペク第三ハ一律付加稅案ハ支那ノ增收ト便宜上ノ見地ヨリ出デタルモノナリト述べ第四ニ就テハ引上率ニ對スル腹案アリヤト質シタルニ先方ハ七步五厘案ヲ話題ニ上ボセズ to be agreed upon ト答<sup>ヘタリ</sup>

又小田切ハ支那財政ノ現状ニ就キ担保不確実ナル外債約二億弗<sup>ヲ</sup>整理スルノ支那ニトリ得策ナルヲ説キ閑稅增收ハ右整理公債払ノ担保ト為スコトガ閑稅増加ノ必要条件ナルヲ切言シタルニ「アンダーウッド」ハ此点ヲ能ク諒解セルモノノ如ク彼我見解ノ相違ハ帰スルニ外債整理資金ノミヲ調達スル為増稅スルカ又ハ夫以上ノ資金ノ調達ヲモ考慮スル

カニ在リト繰返シ述ベタル由ナリ就テハ往電第一七一號ノ次第モアルニ付至急何分ノ儀回電アリタシ

106 10年12月14日(着) ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)  
陸境閑稅輕減率廃止ノ承認ニツキ回電方要請

ノ件

會議第一一一四号(a) (至急) (十二月十三日ワシントン発)  
(一〇五文書) 往電第一八三号ニ閑シ陸境閑稅輕減率廃止方ニ付英仏側ニ於テ此際同意ヲ与フルニ於テハ我方モ之ヲ承認シ差支ナキコトト存ズルモ右御異議ナキヤ何分ノ儀至急回電アリ度シ

107 10年12月14日(発) 内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛(電報)  
中國閑稅引上ニ閑スル英國側提案ノ經緯ニツ  
在支公使發第七九八号  
貴電第六八〇号ニ閑シ  
十二月七日英國公使館商務書記官代理「ジョルヂ」ノ田村ニ語レル處ニ依レバ同公使館ハ本件七分五厘案ニ付何等本

會議第一七二号  
キ在中国小幡公使ヨリ報告ノ件

在支公使發第七九八号  
(一〇文書参照)

十二月七日英國公使館商務書記官代理「ジョルヂ」ノ田村ニ語レル處ニ依レバ同公使館ハ本件七分五厘案ニ付何等本

國政府ヨリ諮詢ヲ受ケタル事ナク從ツテ別段意見ノ具申ヲナシタル事無キ趣ナリ尚同人ハ在支英國商人ノ意見トシテハ從來通り成ル丈稅率ノ低キ事ヲ希望シ殊ニ一方借款不払等ノ事実ニ鑑ミ閑稅增收額力カ徒ラニ支那政府ノ濫費スル处罚ナラザル様監督方法ヲ設クヘキ事ヲ主張シ居レル点モ從來ト異ル處ナシ右ハ仮リニ七分五厘實施ヲ見ルモ同様ナルヘシト云ヘル由ナルカ右ニ依レバ英國側ノ本提案ハ本國政府單獨ニテ決定セルモノノ如ク或ハ客年「ジョルダン」離任前後ニ於テ英國側ハ釐金廃止ヲ条件トシテ閑稅一割二分

ヨリ當時英國公使モ既ニ支那財政整理ノ一助トシテ支那政府

ヨリ閑稅引上ヲ要求シ來ル事アルヘキヲ予想シ且此場合ニ案ヲ為シタルモノカト察セラル尤モ往電第六九九号所報通

リ當時英國公使モ既ニ支那財政整理ノ一助トシテ支那政府

ヨリ閑稅引上ヲ要求シ來ル事アルヘキヲ予想シ且此場合ニ之ニ同意ヲ与ルノ至當ナルヲ覺悟シ居リタルハ事實ニシテ或ハ英國政府ノ底意ニ依リ七分五厘位ノ閑稅ハ支那内地ニ於テ英國品ト競争ノ地位ニ立ツヘキ製造工業ヲ起スニ至ラズ從ツテ斯ル加稅ハ英國商品ニ對シ左迄ノ苦痛トナラザル事實ト此增徵ニ依ル閑稅收入監督問題ニ關シ英國ガ自然的便宜ノ關係ニ在ルニ顧ミアハ好クバ之ガ監督ヲ支那ト内々

我方意向ヲ内示ノ件

108 10年12月15日(着) ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

會議第一二二七号(至急)

閑稅問題ニツキ小田切ヨリアンダーウッドニ

貴電會議第一五四号ニ閑シ

閑稅問題ニ付十一月十四日小田切ハ「アンダーウッド」ト

会見シ前頤貴電御訓令ノ趣旨ニ基キ我方ノ意向ヲ内示セルニ「ア」ニ於テハ前頤貴電ノ一中第一、第二ノ点ハ勿論小田切ノ力説セル第三ノ点ニ付テモ考慮ニ值スルモノナリトノ口吻ヲ洩シ貴電ノ二(一)及(二)ノ点ニ閑スル我方ノ希望ニ對シテハ相當ノ註文ナリト認メタルモノノ如ク(三)ニ對シテハ何等「コメント」スル處ナク大体ニ於テ良好ノ印象ヲ与ヘ

タルモノト認メラル尙ホ「ア」ノ申出ニ依リ明十五日更ニ  
「ボルデソ」ヲ加ヘ三名ニテ内協議スルコトナレリ

次ニ「ア」ハ昨十三日埴原ニ対シ陸境関税輕減率廃止ハ米  
國ノ最モ重ヲ置ク点ナル旨ヲ語リタルガ本日モ亦小田切ニ

対シ同様ノ言ヲ為シタリ右ノ廃止ニ關シテハ一九一八年関  
稅改定委員会ニ於テ我方モ同意スルコトアリト雖モ念ノ為

メ至急御詮議ノ上何分ノ回電アリタシ

109 10年12月16日（発）内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛（電報）

#### 一九一八年關稅改訂委員会ニ於ケル陸境關稅

##### 輕減率廃止問題ノ經緯通報ノ件

會議第一九三号

貴電會議第二二七号末段ニ關シ

一九一八年ノ關稅改訂ノ際ニハ本件輕減率廃止ニ付關係國  
間ニ何等問題起リタル事無ク唯露國側ヨリ改訂稅率ハ陸境  
稅関ニ実施セサル事ヲ申出タルニ対シ我方委員ヲシテ改訂  
稅率ハ各陸境ニ於テモ一律ニ之ヲ実施スルコトヲ要スル旨  
委員会ニ於テ言明セシメタル事アルモ右ハ三分ノ一輕減ノ  
特典廃止ヲ意味セサル事勿論ニシテ我方及其ノ他ノ關係國  
ヲ電報シタル筈ナル旨付言シタル趣ナリ

在支英人一般ハ釐金稅ガ完全ニ撤廢セラレサル限り關稅ノ  
増率ハ反対ナルヲ以テ既ニ当地英國商業會議所ヨリ本国政  
府ヘ夫々抗議ヲ提出シ商務官ヨリモ同様反対意見ヲ其ノ筋  
ヘ電報シタル由尚当地日本商業會議所書記長ヲシテ念ノ為  
英國商業會議所書記長ヘ直接問合セタル處略々同様ノ返  
事ヲ為シ且當地米國商業會議所ヨリモ本国政府ヘ反対意見  
ヲ電報シタル筈ナル旨付言シタル趣ナリ

111 10年12月19日（着）ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

#### 中國ノ關稅增收ニ關シ小田切、アンダーウッド ド、ボーデン会談ノ件

會議第一四六号

往電第二二七号ニ關シ

關稅問題ニ就キ十二月十五日小田切ハ「アンダーウッド」

「ボルデソ」ト共ニ會談シ引続キ關稅關係專門家タル米國  
「トレーレー・レー」書記官英國「サー・レベリン・スマス」  
ヲ加ヘ隔意ナキ懇談ヲ為シタルガ要領左ノ通

一、「ボルデソ」ハ我方ノ意向ガ英米側ト漸ク接近シタル  
ヲ喜ビ關稅增收ノ用途及監督ノ必要ナルハ「ジョルダ

ニ於テハ右ノ趣旨ニ基キ支那政府ト交渉ヲ重ねタル結果現  
行改訂稅率カ三分ノ一ノ輕減ヲ以テ各陸境ニ於テ一律ニ実  
施セラルルニ至リ且從來三分ノ一輕減ノ特典ヲ實施セサリ  
シ間島方面經由貨物ニ對シテモ右特典ヲ励行セシムル事ニ  
付日支間ノ了解ヲ成立セシメタル次第ナリ右御参考迄

110 10年12月17日（発）内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛（電報）

#### 中國關稅引上ノ英國側提案ニ對スル在中国國

##### 國商人ノ反対意向通報ノ件

會議第一九五号

往電第一七二号ニ關シ在上海總領事堯本大臣宛電報第二七

八号（十二月十六日）御参考迄ニ転電ス

尚同電引用ノ本大臣堯本在支公使宛電報第六八〇号ハ英國代  
表ノ七分五厘案提議ニ對スル在支英國公使館屢々商人側ノ  
意向ヲ取調ヘシメタルモノナリ御含フ請フ

閣下發在支公使宛電報第六八〇号ニ關シ在当地英國商務官  
「フォックス」ノ語リタル處ニ拠レハ支那關稅現實七分五  
厘實施ノ件英國側ヨリ提議セラレタル趣伝ヘラレ居ル處本  
件ニ關シテ此迄何等質問モ受ケタルコトナク又自分ハ勿論

二、「スマス」ハ均一付加稅ヲ課スルヨリモ各種輸入品ノ  
市價概要ヲ取調べ各品目ニ對シ區別的付加稅ヲ課シテハ  
如何ト提議セシニ小田切ハ右ハ現實五分換算ト殆ド同一  
ノ労力ト時間トヲ要スルヲ以テ均一付加稅ノ方支那ニ取  
リ有利ナルヲ説キ尚増收ノ点ヨリ言ヘバ付加稅ハ之ヲ輸

出税及輸出抵代税ヲ除キタル凡テノ関税ニ課スルモ亦差支ヘナカルヘシト述べタリ又「スマス」ハ付加税案ハ米國議院ノ承認ヲ受クルニ困難ナルヲ聞キタル旨ヲ述べ改定委員会ニ於テ七分五厘算定ノ場合ニハ現実五分税ヲモ容易ニ算出シ得可キヲ以テ付帯税問題ハ解決困難ナラザルベシト述べタリ

三、「カストディアン・バンク」及海關官吏外人數ノ件ニ付小田切ハ我方ノ立場及希望ヲ詳述セル處前者ニ対シテハ別段「コンメント」ヲスルモノナク後者ニ付テハ「スマス」ハ政治的問題ナリト説キタルモ小田切ハ我対支貿易在支各国人數及各國商社並ニ海關關係各国人數ノ割合等ヲ挙ゲテ全然商業上ノ問題ナルヲ説キテ反駁シ我方ノ希望ヲ述ベタルニ「スマス」ニ於テモ之ヲ諒解セシモノノ如シ

四、差等税主義ヲ加味スヘキ点ニ付テハ「ス」ハ最高額ヲ定メ支那ヲシテ其ノ範囲内ニ於テ自由ニ奢侈品ニ対シ課税セシムヘシトノ説アリ又列国協議ノ上奢侈品等ノ税率ヲ或ル程度迄引上クヘシトノ案アル旨述ヘタルカ小田切ハ日本案ハ奢侈品高級品ニハ七分五厘以上ニ又必需品低タシ右念ノ為

### 會議第一一七号

(一一文書)

貴電會議第二四六号ニ關シ  
我方委員ハ輸出税及輸出抵代税以外ノ總ヘテノ関税ニ付加税ヲ課スルモ差支ナキ旨述ヘ居ル處支那ニ於テ輸入付加税ノ賦課ト同時ニ沿岸貿易税及復進口税ニ付加税ヲ課スルコトニ付テハ我方ニ於テ異議ナキモ輸入抵代税ヲ二分五厘ノ儘トスルハ往電會議第一五四号末段申進ノ通ト御承知相成タシ右念ノ為

113 10年12月24日 開議決定

### 陸境關稅輕減率廢止ノ件

大正十年十一月二十四日

### 開議決定

華府會議ニ於ケル支那關稅引上問題ノ討議ニ關連シ予テ支那側ニ於テ現行陸境關稅輕減率ノ廢止ヲ唱ヘ居リタル所最近米國側ニ於テハ右廢止ニ賛成スヘキ意向ヲ内示シ英國側ニ於テモ之ニ反対セサルヘキ内意ヲ確メタル趣ヲ以テ右廢止ニ關シ英仏両國ニ於テ賛成スル場合ハ我方ニ於テモ之ニ同意シ可然ヤニ付今般我全權ヨリ請訓ノ次第アリタリ

四 中国ニ關スル諸問題(三)

級品ニハ七分五厘以下ニ税率ヲ定メ大体支那ヲシテ七分五厘ニ相当スル收入ヲ得セシメントスル趣旨ナリト了解スル旨述ヘ種々論議ヲ試ミタル末更ニ其ノ品目等ハ結局他日開カルヘキ委員会ニ於ケル協定ニ一任スルノ外ナキモ自分當座ノ考トシテハ棉糸中細番手ノモノニ対シテハ稍々高ク太番手ノモノニ対シテハ稍々低キ税率ヲ定ムルカ如キハ一方法ナラント述ヘ置ケリ

五、小田切ハ前記ニ關シ是等ノ点ノ或ルモノニ付テハ結局北京又ハ改定準備委員会ノ協議ニ譲ラサルヘカラサルモノアルヘク從テ日本トシテハ其ノ主張乃至希望ヲ會議錄ニ留メ置ケハ満足スルモノモアル旨述ヘ置ケリ

六、以上ノ如ク日、英、米ノ意向略ホ明白トナリ三者間ニ一致点ヲ求ムルノ必シモ困難ニアラサルヲ認メタルニ付兔ニ角「レイ」ニ於テ具体案ヲ作成シ右ニ付更ニ協議ヲ重ヌルコトトナレリ

112 10年12月22日 (発) 内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛 (電報)  
沿岸貿易税、復進口税及ビ輸入抵代税ニ關シ  
指示ノ件

按スルニ支那陸境輸入總額(大正九年度)約五千三百五十六万海關兩ノ内安東珲春經由輸入本邦貨物三千五百八十四萬兩ニ達シ總額ニ対スル國別百分率ハ日本六七仏一九英七露七ノ割合ニシテ又支那陸境經由輸出總額(大正九年度)四千百二十五萬兩ノ内日本向貨物壹千九百九十二萬兩ニ達シ總額ニ対スル國別百分率ハ日本四八仏三〇英四露一八ナルヲ以テ右陸境關稅輕減率廢止ノ為蒙ルヘキ負担増加額ハ陸境諸國中我國最モ大ナル事多言ヲ要セサル次第ナルカ前顯滿州陸境輸入本邦品力南滿州輸入外國品總額ノ約三割三分ニ相當スルニ至リタルハ大正三年以降實施セラレタル三線連絡特定運賃制ニ因ルノ外本件陸境關稅輕減率ノ特典ニ因ルモノニシテ本件輕減率ノ特典ヲ廢止スル曉ニ於テハ本邦對滿陸境貿易ハ之カ為不利益ノ地位ニ立ツニ至ルヘシト思考セラル然リト雖モ仮ニ陸境經由滿州向本邦品カ将来漸次海路ニ依ルニ至ルトスルモ海路ニ依ル南滿輸入外國品總額ハ本件輕減率實施後ニ於テモ累年相當ノ增加率ヲ示シ居ルノミナラス本邦ハ海路ニ依ル滿州ノ外國貿易ニ於テモ常ニ最優越ノ地位ヲ維持シ來リ居リ且滿州ニ於ケル經濟發達ノ現状ヨリ見テ本邦品ハ最モ其ノ需要ニ適シ自ラ歐米品ト

其ノ種類ヲ異ニシ居ル關係上陸境關稅輕減率廃止ノ暁ト雖

モ其増加セル負担額ハ大体之ヲ滿州消費者ニ転嫁シ得ヘク

且又外國品ヨリ受クル競争ノ危險モ少ナカルヘキ事情ニ鑑

ミ本件特典ノ廃止ハ我對滿貿易ニ対シ左迄重大ナル影響ヲ

及ホサアルモノト思考セラル就テハ若シ會議ニ於テ英仏両

國ニシテ均シク本件輕減率ノ利益ヲ拋棄シ大勢上我國ノミ

独リ現状維持ヲ主張シ難キ場合ニ於テハ我國モ(一)本件輕減

率ノ廃止ハ現実七分五厘稅ノ実施ト同時ニ一切ノ各陸境ニ

於テ一律之ヲ行ヒ且特ニ露西亞ノ現状ニ鑑ミ支那側ニ於テ

露支國境ニ於ケル本件輕減率ノ廃止ニ付保障ヲ与フルコト

ノ条件ヲ以テ之ヲ承認スルコトトシ唯右承認ニ當リテハ(二)

本件輕減率ノ廃止ハ支那ト接壤關係ヲ有スル各國ニ於テ接

壤ヨリ生スル關稅上ノ片務的利益ヲ均シク拋棄スルノ趣旨

ニシテ從テ支那市場ニ輸入セラルル諸外國貨物ハ今後關稅

取扱上接壤關係ヲ有スル國ノ貨物ト同一ノ地位ニ置カルヘ

キモノト了解スル旨ヲ言明シタル上仮領印度支那ヲ經由シ

テ支那ニ仕向ケラルル外國品ニ對スル區別的現行通過稅ノ

変改ニ付會議ノ注意ヲ促シ成ルヘク之ヲモ廃止セシムルコ

トト致シ度シ

右閣議ヲ請フ  
貴電會議第二(一〇六文書)  
陸境關稅輕減率ノ廃止ニ關スル措置方ノ件

114 10年12月26日(発) 内田外務大臣ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

陸境關稅輕減率ノ廃止ニ關スル措置方ノ件

貴電會議第二(一四一號)(a)ニ關シ

陸境關稅輕減率ノ廃止ハ若シ英仏両國側ニ於テ之ニ同意シ

大勢上本邦獨リ之カ維持ヲ主張シ難キ場合ニハ我國モ(一)本

件輕減率ノ廃止ハ現実七分五厘稅ノ実施ト同時ニ一切ノ各

陸境ニ於テ一律ニ之ヲ行フコト並特ニ露西亞ノ現状ニ鑑ミ

支那側ニ於テ露支國境ニ於ケル本件輕減率ノ廃止ニ付保障

ヲ与フルコトヲ条件トシ之ヲ承認スルコト差支ナシ唯右承

認ニ當リテハ(二)本件輕減率ノ廃止ハ支那ト接壤關係ヲ有ス

ル各國ニ於テ接壤關係ヨリ生スル關稅上ノ利益ヲ均シク拋

棄スルノ趣旨ナルヲ以テ右趣旨ヲ徹底セシムルニハ諸外國

貨物ハ今後接壤關係ヲ有スル國ノ貨物ト均等ノ地位ヲ以テ

支那市場ニ輸入セラルルコトトスルヲ至当トストノ理由ニ

依リ仮領印度支那ニ於ケル支那(雲南広西等)仕向通過外

國品ニ對スル區別的現行通過稅制ハ速カニ之ヲ變改スルノ

要アルコトニ付會議ノ注意ヲ喚起シ成ルヘク之ヲモ廃止セシムルコト致シタシ以上ハ閣議ノ決定ヲ経タル政府ノ方針ナルニ付右ニ從ヒ可然折衝方十分御尽力アリタシ

尚本件輕減率ノ廃止ニヨリ本邦ノ蒙ル負担增加額ハ他ノ諸國ニ比シ最大ナルハ申迄モナク從テ其ノ廃止ハ三線連絡特定運賃制ノ廃止ト相俟テ我對滿陸路貿易ニ対シ不利益ナル影響ヲ及ホスハ勢免レサル次第ナルニ付前記我方針(一)ハ本件ガ實際ノ問題トナリ是非共我ガ態度ヲ明カニセザルヲ得ザル場合トナリタル上關係諸國側ノ意向ヲ篤ト糾サレタル後會議ノ大勢上已ムヲ得スト認メタル場合ニ於テ始メテ之ヲ表明スル様致度ク尚又前記我方針(一)仮領印度支那ニ於ケル通過稅ハ往電會議第七九号及第九七条ノ如ク關係諸外國ニ於テモ均シク其不当ヲ云為シ居ル制度ニシテ本邦品ノ如キハ該仮領ト條約關係ナキ為輸入稅ニ於テ一般稅率ノ適用ヲ受クル結果トシテ輸入稅ノ五分ノート定メアル通過稅ニ於テモ他國品ニ比シ最高ノ稅額ヲ課セラレ居ル處陸境關稅ノ廢止ニヨリ各接壤國ハ何レモ支那ヘノ輸入貨物ニ対シ接壤ニ基ク關稅上ノ利益ヲ拋棄スルニ當リ仮領印度支那ニ獨リ通過外國貨物ニ對スル通過稅制ヲ存置シ支那ヘ輸入スル自國貨

物ヲ保護スルハ所謂機會均等ノ方針ニ背反シ当ヲ得タルモノニアラサルハ論ナキ義ト思考セラルルノミナラス我國トシテハ通商ノ自由ヲ阻害スル諸制度ノ廃止即チ此種通過稅等ノ撤廢ハ巴里講和會議對策準備當時以来ノ確定方針ト為シ居リ已ニ過去兩度ノ連盟總會ニ於テ此種ノ主張ヲ唱道シ来リタル關係アリ且又他方ニハ最近ニ起リタル往電會議第一五〇号ノ事情モアリ旁々此際陸境關稅廃止ノ論議ニ關連シ右廃止ニヨリ最大ノ犠牲ヲ払フヘキ我國ヨリ前記通過稅ノ廃止ヲ希望スルモ決シテ過當且機宜ニ適セサル要望ニ非スト思考セラルルニ付可相成ハ今回ノ會議ニ於テ出来得ル限り右希望ノ達成ヲ計ル様致シタク若シ會議ノ經過之ヲ許ササルニ於テハ我要望ノ趣旨ヲ議事錄ニ止ムル等ノ方法ニヨリ他日交渉ノ地歩ヲ立テ置ク様致シタキ意向ナリト御承知アリタシ

本電在欧各大使ヘ転電シ在西、蘭公使ヘ暗送アリタシ

ヲ受クル結果トシテ輸入稅ノ五分ノート定メアル通過稅ニ於テモ他國品ニ比シ最高ノ稅額ヲ課セラレ居ル處陸境關稅ノ廢止ニヨリ各接壤國ハ何レモ支那ヘノ輸入貨物ニ対シ接

壤ニ基ク關稅上ノ利益ヲ拋棄スルニ當リ仮領印度支那ニ獨リ通過

外國貨物ニ對スル通過稅制ヲ存置シ支那ヘ輸入スル自國貨

九日着電報(議第十九五号)  
英國委員ノ新提案

## 會議第一九四号

(九七文書)

## 往電會議第一一四号ニ閑シ

十一月二十七日午後三時第三回閥稅關係分科會開會、出席者仏國「サロー」ニ代リ「カンメラン」出席、其ノ他ハ前回ノ通り

議長「アンダーウッド」ヘ本件分科會委員会力種々ノ都合ニ依リ延引セラントタルカ本日開會スルコトトナレル旨ヲ告ケタルニ「ボルトン」ハ議長ノ申出ニ依リ過般來日本全權代理小田切ニ度々非公式會談ヲ遂ケ其ノ結果本朝「アンダーウッド」ト共ニ顧全權トモ會見シ本件ニ就キ一致点ヲ見出サムコトニ努メタル旨前提シ從前ノ提案ハ之ヲ別問題トナシ茲ノ新提案ヲナシタシテ別電第一九五号ノ通り陳述セリ右ニ対シ白國委員ヨリ新提案ハ相當浩瀚ナルニ付キ各自研究ヲ遂ケタル上討議シ度シト提議シ結局更ニ明日午後三時再余ヘコトト成レルカ仏國委員ハ開會前一晉シ度シトテ各國ベ夫々國內法上ノ關係有ルヲ以テ尚會議ニ於テ決定セル事項ト雖モ有効ナル為メニハ批准ヲ条件トナスヲ要ス

ロシハムーン會議全權発内田外務大臣宛十一月二十九日着電報  
《會議第一九五号、  
英國委員ノ新提案》

## 會議第一九五号

The Powers attending this Conference agree:

1. That immediate step be taken through a special conference representing China and the Powers which accept this agreement to prepare the way for the speedy abolition of likin and the fulfilment of the other conditions laid down in Article 8th of the Anglo-Chinese Commercial Treaty of September 5th, 1902, and the corresponding Articles of the United States and Japanese Treaties. The Powers here represented agree that so long as these conditions are observed the provisions of the Articles shall be binding on them including the raising of the rate of import duty to 12½% ad valorem.
2. That the present tariff on importation shall be forthwith revised and raised to a basis of 5% effective.

That this revision shall be carried out forthwith by a Revision Committee at Shanghai on the general lines of the last revision. The revision shall become effective two months after publication without awaiting ratification.

3. That the interim provisions to be applied until the Articles referred to in Paragraph 1 come into operation and except while they are in force be considered by the aforesaid special conference which shall be empowered to authorize the levying of a surtax on dutiable imports as from such date, and subject to such conditions as they may agree. The surtax shall be at a uniform rate not exceeding 2½ per cent ad valorem except in the case of certain articles of luxury which in the opinion of the conference can bear a greater increase without unduly impeding trade.

4. (1) That there shall be a further revision of the tariff to take effect at the expiration of four years

四 中國リ認ス之譯正題 (II)

一一四〇

following the completion of the immediate revision herein authorized, in order to ensure that the rates shall correspond to the ad valorem rates fixed.

(2) That following this revision there shall be periodical revisions of the tariff every seven years for the same purposes.

(3) That in order to prevent delay such periodical revisions shall be effected in accordance with rules to be settled by the special conference provided in Paragraph 1.

5. That the present administrative system of the customs shall not be disturbed.

6. That in all matters relating to customs duties there shall be effective equality of treatment and of opportunity for all nations parties to the agreement.

7. That reductions now applicable to the customs duties collected on goods imported into and exported from China by land shall be abolished.

8. That the charge for transit passes shall be at

提案ノ基礎レハト訟議スルナリナルガ其結果

1' 第1項中 United States and Japanese Treaties へ次  
11 with a view to levying surtaxes as provided in those Articles ハ居ク迄ノ金額還ヘロ

11' 第1項未段 as rapidly as possible ハ次く with a view to its completion within four months from the conclusion of this conference ハ再入スハリ

11' 締11項前段中 (ア) special conference which shall へ  
force ハ前述ス (ア) special conference which shall へ  
次々 be empowered to ハ前述ス (ア) from such date ハ次く for such purpose ハ前フニハ (ア) as they may agree ハ as they may determine ハ故バムナ (カ) 後段中 not exceeding ハ前ス of ハ前フニハ (ア) 後段未尾 11 and upon which the total surtax shall not exceed 5 per cent ハ加ヘスル

四 第五項全部ヲ削除シ別電第11〇11号ハ題旨ハ從ヒ支那側へ宣傳ヘシト極東問題決議書ノ付属文書トナスハ  
五 第七項陸境関税ヲ付トハ仮開便ノハ反対ノ並総委員会

ハ織田ベルハ

the rate of two and half per cent ad valorem except when the arrangements contemplated in Paragraph 1 are in force.

9. That the treaty Powers not here represented shall be invited to accept the present agreement.

10. That this agreement shall override all provisions of treaties between China and the Powers which accept it which are inconsistent with its terms.

Zenken.

116 10年12月30日(着) ハソーン会議全權モリ  
内田外務大臣宛(電報)

第四回関税問題分科会ノ議事要領報告ノ件

別電 ハソーン会議全權モリ内田外務大臣宛11月11日  
現行関税制度ノ維持リ関スル中國側ノ實情

会議第11〇11号

(<sup>一五文書</sup>)

往電第11九四号ニ閣

(<sup>一五文書</sup>)

十1月11十八日午後11時第四回関税関係分科会開会議事経過ハ追テ電報スベキヤ要領左ノ通り

議事ハ往電第11九四号ノ別電第11九五号「米ルゲン」ノ新

右修正ヲ加ヘタル上全部提案通り可決シタリ依テ議長ニ於テ本件ニ付総委員会ニ報告スベキ報告案文ヲ作製シ更ニ本件分科会ノ確認ヲ経タル上之ヲ総委員会ニ報告スルヨリムシ尚右分科会開会ノ日取ハ議長ニ於テ決定シ之ヲ各員ニ通知スルヨリナリ閉会セリ  
右決定中現実五分改訂ニ付テハ我方ノ反対スベキ理由ナク且右改訂ニ際シ差等税主義ヲ認メシムル理由ニシク之ヲ主張スルハ大勢上不利ナルヲ認メタルヲ以テ我方ニ於テ強ヒテ之ヲ主張セザラン次第ナリ又一分五厘付加税ニ付差等税主義ヲ認メシムルヨリハ從来英米側トノ非公式会談ノ結果ニ鑑ハ此際之ヲ例ヘ希望条項トシテナリトモ我方ニ於テ主張スルハ却ツテ面白カバズト認メラム且ツ「ボルト」ハガ「アンダーウッド」ト協議ノ上此ノ点ニ閉スル我方ノ希望トヤ斟酌シ二分五厘付加税ノ実施期(不明)之ヲ将来組織セラルベキ特別委員会ノ決定ニ譲ルベキ旨ノ妥協案ヲ提出シタル事情モアリ旁々此点ニ付テハ此際何等主張スルコトナク同意ヲ与ヘタル次第ナリ右ノ詳細其他本日ノ會議ニ於テ小田切ガ予テ御訓令ニ基ヅキナセル陳述等ハ追テ詳細電報スクヤ右為申添ハ

四 中國ニ関スル諸問題 (II)

一一七一

在歐各大使へ転電シ蘭、西へ郵報セリ

(別電)

ラシントン会議全權發内田外務大臣宛十一月三十一日着電報

現行關稅制度ノ維持ニ関スル中國側ノ意向

會議第二〇三号

別電

Declaration of intention not to disturb the present administration of the Chinese Maritime Customs.

The Chinese Delegation has the honor to inform the Committee on the Far Eastern Question of the Conference on the Limitation of Armament that the Chinese Government have no intention to effect any change which may disturb the present administration of the Chinese Maritime Customs.

Zenken.

117 10年12月30日(着) 内田外務大臣ヨリ  
ラシントン会議全權宛(電報)

\*一七一甲号

貴電會議第一九四号ニ関シ

貴電會議第一九五号別電「ボルゲン」提案ニ付テハ説明ナキ為メ充分了解シ兼ヌル点アル處  
〔往電會議第一五四号申進ノ通本協定ニ依ル關稅增加額ノ保管(「カストニア・バンク」ノ關係)使途監督並稅閏制度ノ調整ハ帝國政府ノ最モ重ヲ置ク所ニシテ貴電會議第一四六号「アンダーウンド」及「ボルゲン」トノ会談第三点ノ事情アルニ拘ラス本提案ニハ我方希望ノ貫徹セラレタル跡ナキガ如キ處此点ニ付我方主張ヲ貫徹スヘキ何等了解ヲ各國委員ヨリ得置カレタル儀ナリヤ何分ノ儀至急回電アリタシ若シ然ラサルニ於テハ郵便局撤廃問題ノ場合ノ如ク本提案第五項ニ於テ依然現制度ヲ維持スル旨ノ規定アルヲ以テ御承知ノ通所謂「アグレン」提案ニ依リ看取シ得ルカ如ク英國カ支那ノ關稅ニ対スル監督ヲ現制度維持ノ名ノ下ニ漸次自己ノ掌中ニ収メムトシツツアルカ如ク之ニ対シ事実對支貿易ニ於テ最高額ヲ有スル我國カ此等ノ点ニ付英國ト同等ノ地位ヲ主張スルコト固ヨリ当然ノ次第ナルニ付貴官ハ此点ニ關スル我主張ヲ貫徹スル様十分御尽力ノ上何レニシテモ上海ニ於ケル税率改定委員會ニ於テ本邦委員カ十分我主張ヲ為シ得ル様該委員會ニ対シ本件決定ノ権限ヲ与

く置クトト致サレタシ尤ボルゲン提案第六項ハ或ハ我方ノ主張ノ趣旨ヲ表ハスモノカトモ想像セラル結果シテ然リトセバ原案ノ儘ニテハ意義不明確ノ嫌アルニ付第六項ヲ第五項ノ一部メシ It is however understood that in all matters relating to customs (殊更ニ duties ノ一語ヲ省ハ) there shall be effective equality 但々ト改メシメラヘ且ソ我方趣旨ノアル處ヲ明確ニシ之ヲ議事録ニ留メ置クハレト致サレタシ

四 「ボルゲン」提案ノ第一項一割一分五厘ハ貴電會議第一九四号後段ノ通ノ成行アリ又之ヲ承認スルニハ改メテ閲議ノ決定ヲ要スル次第ナルニ付右御含アリタシ

118 10年12月31日(着) 内田外務大臣ヨリ  
英國委員ノ新提案第一項ノ修正全文回電方訓

令ノ件

會議第一七一乙号

貴電會議第三〇一一号ニ關シ

同電ニ引用ノ貴電會議第一九五号別電第二項中ニハ as rapidly as possible ノ文字ナシ with a view 以下ノ訂正文ハ何レノ処ニ挿入スベキヤ不明ナリ修正後ノ第二項全文折返シ回電アリタシ

〔「ボルゲン」提案第三項ニ依レハ付加稅ハ現実五分改訂実施ニ先チ現行稅率ニ対シテモ徵收セラルヘキモノト解セラルル処此場合ニハ現実五分改訂ト共ニ現実七分五厘トナルノ計算ナルニ付予メ往電會議第一五四号ノ一我方針第一ノ趣旨ニ副フ様適當措置方御尽力アリタシ

四 「ボルゲン」提案第六項ノ effective equality ハ何等往電會議第一五四号ノ〔差等稅率ノ設定ヲ妨ケサルヘキ趣旨

ヲ必要ニ応シ此際明確ニシオカレタシ

119 10年12月31日(着) ワシントン會議全權ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

第四回關稅問題分科会ノ議事詳報ノ件

會議第二〇六号

〔一六文書〕

會議往電第三〇三号ニ關シ

十一月一十八日午後第四回關稅問題分科会開会伊國「アル

四 中国ニ關スル諸問題 (II)

一一七二

「ベイティ」ニ代リ「パリアン」出席其他出席者前回ノ通議長ハ前回「ボルデン」ノ為セル新提案ニ対スル各委員ノ意向ヲ求メタルニ支那委員ハ「ボ」案ヲ討議ノ基礎トナスニ敢テ反対セントスルニ非ザルモ支那側ガ嚮ニ提案セル事項特ニ或ル時機ニ至ラバ関税自主権ヲ回復スペキ事及或ル期間内ハ最高率ヲ定メ得ル事ノ二点ハ是ヲ捨テントスルモノ

ニ非ザル事ヲ明確ニ為シ置キ度シト述ベ議事ノ順序ニ付議長ノ意見ヲ求メタリ此時議長ハ直チニ支那全權ニ於テ「ボ」案ヲ討議ノ基礎トスルニ異議無キモノト認ムルヲ以テ先づ右ニ付必要アラバ一般的討議ヲ為シ次イデ第一項ヨリ順次付議シ度シト諮リタルニ仏國委員ガ原案第七項ヲ除ク外異議無シト答ヘタル外各委員議長ノ提言ニ賛成シ直チニ第一項ノ討議ニ入ル

(一) 第一項後段ニ付小田切ハ修正意見アリト前提シ一九〇三年ノ追加日支通商条約締結當時ノ經緯ヲ詳説シテ日本ハ英米ノ如ク一割二分五厘税ヲ承諾セルモノニ非ザルコトヲ明確ニ為シ此ノ意味ニ於テ修正案ヲ提議セルニ右ニ就キ支那委員ハ条約ノ効力ヲ弱ムルニ至ラザルヤフ虞ルト述べタルニ対シ「ア」ハ税率等モ特別委員会ノ決定ニ委ヌルモノニ

(三) 第三項前段中前電三ノ(イ)ニ關シ小田切ガ為念質問セルニ対シ「ボ」ハ削除セル文句ノ意味ハ支那ガ一旦釐金ノ廢止及其他ノ条件ヲ履行シ或程度ノ付加税ヲ実施スルニ至リタル後ニ於テ釐金ヲ再徵スルガ如キ場合生ジタリトセバ右付加税徵收權ハ其時ヨリ効力ヲ失ヒ釐金廢止前ノ状態ニ復帰スペキモノナリト説明シタルガ討議ノ末斯ノ如キハ当然ノ理ナリト為スモノ多ク結局右文句ヲ削除スルニ決ス

前電三ノ(ロ)ニ關連シ支那委員ハ“*The levying of a surtax*”

以下ノ意義ハ極メテ曖昧ニシテ此儘ニテハ将来開カルベキ特別委員会ノ意向如何ニ依リテハ終ニ何等ノ付加税ヲモ増微スルコト能ハザルコトアルベシトテ不満ノ意ヲ洩ラシタルニ「ア」ハ支那委員ノ希望ノ如ク成ルベク明確ニ定メタキハ望マシキ次第ナルモ原案以上明確ニ定メムトセバ各国中ニ異議アルヤモ計ラレズ其實施期ノ如キニ至リテハ殊ニ然リト切言シ「ボ」ハ非公式会談ノ結果ヲモ深ク考慮シタル別委員会ノ議ニ一切ヲ委任(マンデート)スルコトニナレルナリト述べ更ニ「ア」ハ本項ハ特殊ノ事情ヲ考慮シタルノ案ナリ勿論将来ノ特別会議ニ於テ何等決定ヲ見ザルコトナキヲ保セズト雖前陳ノ如ク妥協案ナル限り右ハ致方ナシ

(二) 第二項後段ヲ前電二ノ通り修正セル處支那委員ガ譬へバ四ヶ月トナスガ如ク何等期限ヲ定メ置キタシト提議セルニ依リ「ボ」ガ修正字句ノ挿入ヲ提案シタルモノナルガ日白仏等ヨリ其ノ実行困難ナルベキヲ指摘シ特ニ小田切ハ四ケ月内ニ終了セザル場合ハ如何ト質問シタルニ「ボ」ハ斯カル場合ハ更ニ延期スペキノミ右修正ノ趣旨ハ單ニ成ルベク速カニ改定ヲ行ハシメントスルニ在ルヲ以テ必ズシモ字句ニ拘泥スルヲ要セズト答へ可決セリ

尚仏國委員ハ改訂税率ガ批准ヲ待タズ実施セラルベシトノ点ハ明ナルモ元來本件決議ハ追テ何等條約又ハ協約ノ形式トナルベキモノト思考ス然リトセバ其批准終了迄ハ効力ヲ生ゼザルモノト信ズト述べタルニ「ボ」ハ右ハ當然ノコトニ属スト答ヘタリ

支那側ニ於テ強ヒテ反対セムトスルニ於テハ終ニ斯ル妥協案スラ成立スルニ至ラザルヤモ測ラレズト述べ此間仏國及白國委員モ「ア」及「ボ」ノ所言ヲ援護セリ茲ニ於テ支那委員ハ右妥協案作成ニ対スル「ア」及「ボ」ノ好意ニ就キ感謝ノ意ヲ表シ且前電三ノ(ロ)ヲ削リ又(イ)ノ“*agree*”ヲ“*determine*”ト改メタシト提議シ尚(ル)ノ“not exceeding”,ハ之ヲ“*or*”ニ改ムルコトニ同意アリタシト述べタルニ依リ各國委員異議ナク同意セリ

右例ノ修正ハ我方ニ於テ實質上重大ナル關係アルモ小田切ハ兼テ英米委員ニ対シ其ノ非公式会談ニ於テ一定年後ハ七分五厘迄ノ関税引上げニ同意スベキ旨ヲ内示セル次第モアリ且ツ前述ノ如キ「ア」及「ボ」ノ所言モアリ尚モ奢侈品ヲ除ク一般普通品ヲ更ニ區別シテ異ナリタル付加税ヲ課スベシトノ提案ノ如キハ仮令希望事項トシテナリトモ此際之ヲ主張スルハ徒ラニ論議ヲ招クノミニシテ却テ面白カラズト認メタルヲ以テ之ニ異議ヲ唱ヘザリシ次第ナリ

次イデ前記(イ)ニ關シ仏國委員ハ元來奢侈品ナル語ノ意義広汎ニシテ曖昧ナルヲ以テ之ヲ明確ニセシコト及奢侈品ニ対スル付加税ニ対シテモ其ノ限度ヲ定ムベキコトノ二点ヲ主

張セリ右ニ対シ白国委員ハ之等ノ事項ハ何レモ特別委員会ノ議ニ一任シ可然シト述べタルモ仏委員ハ一般付加税率ノ定メラレ居ル以上奢侈品ニ対スル付加税ノ限度ヲ定ムルハ当然ナリト固執シ且ツ仏國ハ奢侈品ニ対シ一般付加税ノ上ニ二分五厘以下ノ付加税ヲ課スルニ異議アルニ非ズト述べタル為メ結局此点ニ付「ボ」ガ提議セル通り前電三ノ<sup>(1)</sup>ノ挿入ヲ可決スルニ至レリ茲ニ於テ第三項ハ可決セラレントセルガ小田切ハ本項付加税承認ノ条件トシテ本分科会ノ論議ニ供セントスルニ非ザル旨ヲ前提シ貴電會議第一五四号<sup>(1)文書</sup>ノ第三ノ趣旨ニ則リ閑税增收ノ用途如何ハ帝国政府ノ最モ重キラ置ク所ナル旨及增收ハ之ヲ外債償還ニ充ツルヲ良シト認ムル旨ヲモ詳細ナル陳述ヲ為セリ右ニ対シ仏國委員ハ全然同感ナル旨ヲ述べ第三項ノ終リニ增收ハ之ヲ先ヅ外債ノ償還ニ充テ次イデ支那國庫証券等ノ銷却ニ充当セラルベシトノ趣旨ヲ追加スルカ又ハ少ナクトモ其ノ用途ニ關シ此際何等決定シ置クノ要アルヲ力説セルガ「ボ」ハ右付加税增收ハ今後幾年カノ後初メテ生ズルモノナルニ付斯ル事項ハ特別委員会ニ於テ決スル方適當ナルベシト答へ「ア」モ亦本項中 condition ノ解釈上斯カル事項モ共ニ特別委員会ニ挙ケテ其ノ議決ニ委任スルト共ニ支那ノ体面ヲモ傷クルコトナカラシメントセルニアリトテ「ア」ト共ニ支那委員ノ承諾ヲ強ヒントスルノ態度ヲ示セル為遂ニ支那委員モ同意ヲ与フルニ至リ右可決セリ

四第四項ハ異議ナク可決

国第五項ニ対シ支那委員ハ税関ノ現制度ハ何等条約ニ依リ規定セラレタルモノニアラズ唯總稅務司ノ地位ニ付協定アルノミ又支那ハ總稅務司ノ現制度ノ改善ヲ図ルト共ニ成ルヘク多數ノ自国人ヲ使用セントスル希望アル旨縷述シ本項ノ趣旨ハ支那ノ宣言トシテ前電ノ通り処置シ度シト述べ各委員之ニ同意セリ

右ニ付小田切ハ貴電會議第一五四号ノ(一)ノ趣旨ニ基キ「カストディアン・バンク」及海關内外国人ノ割当等ニ付将来適當ノ「アジャストメント」ヲ希望シ且特別委員会ニ於テ右希望ヲ考慮ニ入レンコトヲ希望スル旨詳細陳述ヲ為セリ右ニ対シ仏國ヲ始メ白国和蘭共ニ賛成ノ意ヲ表シ支那委員ハ元來右ハ條約上ノ根拠アルモノニアラザルモ特別委員会ニ於テ協議スルニハ異議ナシト述べ又「ア」ハ日本委員陳述ノ点ニ闇シ米国トシテハ現在寧ロ満足スベキ地位ニ在ル

於テ決定スベキモノナルコト明白ナルニ付茲ニ強テ論ズル要ナシト述べ支那委員ハ元來國家当然ノ歳入タル閑稅收入ノ用途ニ付制限ヲ加ヘントスル仏國委員ノ提案ハ支那ノ歳入歳出ヲ國際條約ヲ以テ拘束セントスルカ如キハ断シテ承認シ難シトテ繰々反対意見ヲ述べタルカ於是「ア」ハ妥協案トシテ conditions ノ次ニ and including all occasion of such revenue ノ数字ヲ挿入セントヲ提議セルニ支那委員ハ「ア」ノ妥協的精神ハ感謝スルモ抑々支那ハ一割一分五厘若クハ夫レ以上ノ税率ヲ切望シタルモ妥協ノ精神ニ依リ遂ニ七分五厘ヲ承認セントス是レ敢テ不当ナル要求ニアラス然ルニ其ノ使途ヲ拘束セントスルハ支那ニ於テ同意シ難キ所ナリト論シ且支那カ財政窮乏セル諸原因ノ最近ノ一例トシテ中法實業銀行事件ヲ挙ケタルニ対シ仏國委員ハ其ノ公私混同セル論拠等ヲ攻撃スル所アリタルガ於是「ボ」ハ前電三ノハノ通り挿入方提議シ「ア」ハ右「ボ」案ハ原案ノ意味ヲ明カニスル為ニシテ一面仏國委員ノ希望ニ副ヒ他面此ノ意味ナラハ支那委員ノ反対ヲ緩和シ得ヘシト助言シ更ニ「ボ」ハ元来特別委員会ノ制度ヲ採用セルハ之二十分ノ権限ヲ与ヘ當會議ニ於テ決定スルコト困難ナル事項ハ

モノト認ムルト同時ニ日本側ノ希望ハ正当ニシテ何等異議ヲ唱フベキ筋合ノモノニアラズ從テ各國ノ対支貿易額ニ比例シ相当按排スルヲ公平ナリト信ズト述べタリ

内第六項異議ナク可決

(七)第七項陸境閑稅輕減率廃止ニ關シ仏國委員ハ本件ガ古來ノ關係ハ「ビルマ」其他ノ陸境關係ト地理上及交通上大イニ其趣ヲ異ニシ且又仏領印度支那地方ニハ其數四十万ニ達スル支那人在住スルコト等ヲ指摘シ仮令本項ヲ如何ニ変更スルトモ断ジテ同意スルヲ欲セズト述べ支那委員ガ本件輕減率ノ歴史ヲ縷述シ該制度ニ依リ失フトコロ年々二百万弗ニ達スルノミナラズ右ガ門戸開放主義ニ反スルモノナリト主張シ又「ア」ハ米国ノ政策ハ機會均等ノ尊重ニ在リト力説シ且本件ハ關係各國ガ一律ニ同意スルニアラザレバ効力ナク又本件ニ関シ不一致ハ為ニ閑稅問題全般ニ影響ヲ及ボス次第ナリトテ仏國委員ノ再考ヲ求メタルモ仏國委員ハ主張ヲ固持セリ

茲ニ於テ「ア」ハ仏國側ガ絶対反対ナル以上致方ナク且本会ハ分科会ナルヲ以テ本件ニ關スル各國委員ノ意見ヲ総委

四 中國ニ閥スル諸問題 (II)

一一七八

員会ニ報告スルニ止メタシト述べ各委員ニ就キ其意見ヲ求メタリ右ニ対シ「ボ」ハ英國トシテハ難キヲ忍ンデ原案ニ同意スト述べ其他ノ委員孰レモ勿論同意セリ小田切ハ貴電會議第一四一號ノ趣旨ニ従ヒ之ニ同意ヲ表スルト共ニ仏領印度支那ニ於ケル通過税問題ニ就テモ仏國側ノ考慮ヲ希望スル旨詳細陳述セリ

(八)第八及第九項異議ナク可決  
以下前電ノ通ニテ六時半閉会セリ

在欧各大使ヘ転電シ在蘭、西両公使ヘ郵報セリ

120 10年12月31日(着) ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)  
在ロハハトハ中國民間諸団体ノ日本商品ボイ

ワット決議ニ閑スル報道報告ノ件

會議第三一一号

在当地支那民間諸団体代表者等ハ華府會議ニ於ケル支那側提議ハ事毎ニ日本ノ妨害ニ依リテ破ラレタリトナシ警察撤廃治外法権租借地還付山東二十一ヶ条何レモ然ラザルナキモ特ニ最近採用セラレタル閑税増率案ニ於テ日本ノ横暴最モ甚ダシキヲ見ルトテ遂ニ右事情ヲ具シ日本ノ侵略主義

two months after publication without awaiting ratification.

尙ホ閑税分科会決議各項ノ成立及其ノ字句ハ今後總委員会及場合ニ依リテハ起草委員会ノ意見ニ依リ多少ノ修正ヲ看ルコトアル可シ右為念

Zenken.

122 11年1月1日(着) ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ボーネハ提案ニ対スル措置ニツキ回答ノ件

會議第三一一一號

(一)七文書  
貴電第一七一號ヲ以テ御申越ノ諸点ハ會議往電第二〇六號ニ依リ御諒解ヲ得タルコトト存ズルモ尚何等御不審ノ点アラバ至急回電アリ度シ  
在欧各大使ヘ転電シ蘭、西ヘ郵報セリ

123 11年1月1日(着) 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)  
陸宗輿及ビ梁總理ヨリ閑税率引上ニ閑シ日本  
政府ノ贊同方ヲ懇請ノ件

第八三九号

對シ支那國民ノ義憤ヲ示ス為全國ニヨリ改メテ日本ニ対スル一般的「ボイコット」(貨物及「サー・ジ・ベー」)ヲ実行セラレントラ求ムトノ決議ヲ各本部(支那総務商会同業組合學生連合会天津各界連合会山東山西各省議会等)ニ打電セル趣三十日各新聞ニ掲載セラレタリ

121 11年1月1日(着) ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)  
ボーネハ提案ニ対スル修正ニ閑シ再電ノ件

會議第三一一〇號

貴電會議第一七一號ニ閑シ再電ス

That the present tariff on importation shall be forthwith revised and raised to a basis of 5% effective.

That this revision shall be carried out forthwith by a Revision Committee at Shanghai on the general lines of the last revision. The revision shall proceed as rapidly as possible with a view to its completion within four months from the conclusion of this Conference, and the revised tariff shall be come effective.

一十九日陸宗輿ハ大總統ノ命及財政總長ヨリノ依頼ヲ受ケタリトテ本使ヲ來訪シ目下華府ニ於テ商議中ナル支那閑稅率問題ニ閑シテハ支那ノ主張ハ急ニ同意ヲ得ズ英國ノ修正案ニ対シテモ日本代表ハ未ダ同意セズシテ現行稅ニ三割増加ヲ主張セルモ支那代表之ヲ承諾セザルニ依リ決定ニ到ラザルガ塩稅剩余ヲ担保トスル各借款ヲ除外シテ支那政府ノ未払内外長期、短期各借款ニシテ確實ナル担保無キモノ三億万元以上アリ依テ政府ハ明年二月ヨリ先づ現行閑稅ノ五割内外ノ增徵ヲ担保トシテ七千萬元ノ公債ヲ發行シテ塩余ヲ担保トセル最急ノ内外債(其内ニ滙業、興業、朝鮮ノ三銀行及中日、興亞ノ二公司借款額計二千余万元アリ)ヲ償還シ塩余ヲ融通シ必要ナル行政費ノ支出ニ當テ政府其日暮ノ風ヲ防ギ且ツ右ハ臨時弁法ナルガ政府ノ意志ハ現実百分ノ七・五増徵ノ時ニ於テ右弁法ヲ廢シ別ニ未払短期内外債(外債丈ニテ一億万元以上アリ其内日本借款一億五千五百余万元アリ)償還ノ為右増稅ヲ担保トシテ三億万元ノ長期公債ヲ發行シ教育實業ノ進行ニモ供シ以テ外債ニ損失ヲ來サズ且ツ支那ノ信用ヲ維持セン事ヲ決定シ政府ヨリ華府支那全權ニ対シ右方針ニテ迅速進行方電訓セリ就テハ右

方針ニ賛同方日本政府ニ電報アリタキ旨依頼セリ依テ本使ハ政府ノ意向不明ナルモ免ニ角電報方陸ニ諾シ（レ）二日梁總理ニ会見前記陸申出ニ談及シタル処總理ハ右ハ財政總長等ト商議ノ上陸ニ依頼シタル次第ニ付キ是非賛同方配慮願度シ尤モ只今接手シタル華府支那全權ヨリノ電報ニ依レハ華府會議ニ於テ（レ）将来釐金撤廃ト同時ニ現実百分ノ十二半ノコト（レ）評価委員会ヲ設置シ其ノ決議ヲ俟テ現実百分ノ五徵收ノコト（レ）三年後ニ現実百分ノ七・五ヲ徵收ノコト四ハ現実百分ノ七・五以上ニ増徵シ得ヘシトノ案ヲ起草中ナリトノ旨報告サレタルニ付キ若右ニシテ事実トセハ情況ニ少シク變化ヲ生シタルト認メラルカ評価委員会ハ何日頃其ノ結果ヲ見ルヤ不明ナルニ付キ明年二月ヨリ右委員会ノ決定アル期間迄現行稅ノ五割增徵方日本政府ノ好意ヲ以テ日本全權ヨリ提議煩ハシ度ク且ツ前記七千萬元ノ公債中一千萬元タケハ支那舊暦年末ノ決算期ニ有用アルヲ以テ明年一月十日迄ニ現行稅五割增徵ノコトヲ決シ該公債發行ニ資スル様致度キニ付キ此ノ二点併テ日本政府ノ賛同ヲ得タシト述ヘタリ本使ハ（レ）依頼ノ次第ハ電報スヘキモ日本政府ノ意見如何ハ不明ナルト且ツ本件ハ日本一国ノ意志ニテ決定スヘキ

意ヲ感謝スルモ旧暦年末既ニ目前ニ迫リ居レルヲ以テ七千萬元公債中一千万元元丈ケハ是非共旧年末以前ニ払ヒ致シタシトノ希望ヲ繰返セリ

次テ三十日張弧亦本使ヲ來訪シ内外債ノ狀況ヲ詳述シ自分ハ日本側トノ關係モ密接ナルニ付在任中ニ公平ナル方法ニテ日本借款ヲ整理致度キ考ヲ有スルニ付特ニ援助ヲ煩ハシタシトテ梁、陸同様ノ懇願ヲ為セリ

124 11年1月3日（着）在英國林大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

### 英國極東部長中國關稅七步五厘引上ニ躊躇ノ

旨私談ノ件

第三号

本使発在米大使宛電報

第二号

支那關稅改正ニ關シ極東部長ハ本使トノ私談中七步五厘承認ヲ躊躇シ居ル趣ヲ語リタルガ右ハ支那ガ一方釐金廢止一割二步五厘ヲ提倡シ他方右廢止ニ至ル迄七步五厘ニ満足スルハ殊勝ノ如ク見ユルモ其實釐金撤去ハ実現ノ見込ナク一割二步五厘ハ期待セラルトコロニアラズ右提倡ノ蔭ニ隠

筋合ニ非サルヲ以テ当地英米仏等ノ公使ニモ依頼セラル公債スラ容易ナラスト認メラルニ一時ニ三億萬元ノ如キコト然ルヘシ（レ）將又本使ノ私見ナルモ戰後世界金融界ノ動搖甚シキ際譬へ担保ノ確実ナルモノ有ルニセヨ七千萬元ノ巨額公債ハ果シテ發行セラルヤ頗ル疑問ナリ殊ニ今後ノ公債ハ利子モ相当高率ヲ要スト認メラルカ日本ノ借款ノ如キハ支那財政ノ窮乏セル今日必シモ現金ヲ直ニ償還セヨト要求セルニアラス確カナル方法ニテ利子ノ支払サヘ实行セラルレバ相當長期間ノ償還ニ必シモ異議ナカルヘシト考ヘラルニ付寧ロ巨額ノ公債ヲ一時ニ發行スルヨリモ國稅增收ヲ以テ確美ニ先ツ内外債ノ利子支払ヒ次テ元金ノ償還ニ充ツル方支那ノ為得策ニアラスヤト述ヘタルニ總理ハ（レ）ニ對シ今回（脱）外債ハ短長期共ニ日本借款最モ多ク且真ノ好意的援助ヲ願ハントスルニハ余リ多クノ國ニ請フヨリ先ツ日本丈ケトシ其ノ旨既ニ華府全權ニモ電訓シ置キタル次第ナリ（レ）ニ對シテハ支那ノ希望セル國稅增收ハ決シテ支那國內ノ不当ナル行政費軍費ニ濫用スルモノニアラサルヲ以テ予メ其ノ用途ヲ明確ニ致置度キ為ナルカ巨額公債ノ發行得失ニ關スル本使注意ノ次第ハ尤モノ点アルニ付好

レテ七步五厘迄引上ゲシムルノ魂胆トモ之ヲ解シ得ベク列國ハ其好餌ニ釣ラレ釐金据置七步五厘ヲ承諾スルコトトナリ不都合ナリトノ理由ニ出ズルモノニシテ尤モト考ヘラル節アリ右ハ貴地英國側ニテモ氣付キ居ルヤ否ヤ承知セザルガ何等御参考迄

125 11年1月5日（着）ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

### 第五回關稅問題分科會ニ於テ陸境關稅問題及

ビ中國裁兵問題討議ノ件

會議第三三五号

會議往電（一九文書）第三〇六号ニ關シ

一月三日午後第五回關稅分科會開催

議長ハ總委員会ニ提出スベキ報告文文案ヲ議題ニ供シタルガ仏國委員ハ陸接國境關稅問題ニ關シ仏國領印度支那ト支那トノ特殊關係ヲ講述シ本件ハ陸接關稅ニ付條約關係ヲ有スル各國間ノ別協議ニ譲リ度キ旨ノ修正案ヲ提出シタルガ米國委員ハ右ニ對シ米國側主張ノ要点ハ通商上ノ機會均等ニ在リ從テ右主義ニ累ヲ及ボスガ如キ陸接國境關稅輕減率ノ

如キハ之ヲ廢止スルヲ要スト述ベタルヲ以テ英國委員ハ「支那ノ海陸國境ニ於テ徵收セラルル關稅ヲ完全ニ均等ナラシムル趣旨ヲ以テ支那ノ關稅ニ關シ條約ヲ有スル各國及支那トノ間ニ於テ成ル可ク早ク協議ヲ開クコト右協議決定ニ至ル迄ハ一般支那關稅ニ關スル協議ニ基キ課セラルベキ付加稅同様ノ稅率ヲ海陸國境ニ均シク賦課スルコト」ノ修正案ヲ提議シタルモ米國委員ハ右ヲ認ムルニ於テハ尚ホ國境ノ海陸ニ依リ異リタル稅率ヲ適用スベキコトヲ認ムルノ結果トナルベシトテ反対シ本件ハ止ムヲ得ザルニ付總委員会ニ報告スルコト致シタシト述ベタリ茲ニ於テ英國委員ハ仏國委員ヲ別室ニ招キ懇談セルモ結局纏ルニ至ラズ本件ハ明四日午前更ニ分科會ヲ開キ引続キ之ヲ協議スルコトトナレリ

次デ英國委員ハ前回ニ於テ協定セル事項中ニハ關係各國ノ批准完了ヲ待ツヲ要セズシテ實施シ得ベキ事項例ヘバ現実五分改訂ノ如ク既定ノ事実モアルニ付此点ヲ總委員会ニ報告スルニ際シ明ニナシ置クヲ要スベシトテ議長ノ付議セシ報告案ニ對スル修正ヲ提議セリ右ハ會議往電第三〇六号ノ末段所述仏國委員及英國委員ノ言ヲ打消スコトトナル次第トナレリ

126 11年1月6日（着）ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

### 第六回關稅問題分科會ニ於テ陸境關稅ニ關ス

#### ル仏國修正案可決ノ件

別電 ワシントン會議全權發内田外務大臣宛一月六日着  
電報會議第三四五号  
陸境關稅率ニ關スル仏國修正案

#### 會議第三三四四号

一月四日午前第六回關稅分科會開会

白国「カルチエ」、和蘭「アンゼリノ」出席、其ノ他出席者前回ノ通り

議長ガ前回陸接國境關稅率問題ヲ付議スベシト述ブルヤ英國委員ハ仏國委員ト協議ノ結果修正案ヲ作成セリトテ別電會議第三四五号ノ通り朗讀セリ右ニ對シ議長ハ米國政府ニ取リテハ右修正案ノ意義ヲ敷衍シテ之ニ賛成シ其他ハ支那委員ガ一二字句ノ意味ニ付質問シ日本委員ガ日本政府ノ意見ハ十二月二十八日ノ「ステートメント」ニテ明白ナルベシト述べタル外別ニ論議ナク之ヲ可決セリ依テ議長ハ「ボルデン」提案（會議往電第一九五号）第七項ハ右可決文案

ナルガ仏國委員ニ於テモ敢テ反対セズ又右ハ寧ロ当然ノ事ニ属スルヲ以テ各國委員之ニ同意セリ次デ米國委員ハ支那

委員ノ反対アラバ撤回スベキ旨前提シ主トシテ支那地方督軍ノ擁スル過大ノ軍兵ハ支那ノ財政經濟上有害ニシテ支那ノ政治上ノ統一及保全ニ對スル一大脅威ヲナスノミナラズ

公益ノ資ニ供セラルベキ國庫收入ヲ濫費スルノ因ラナスモノト認ムベキニ鑑ミ此禍根ヲ絶ツニ非レバ到底支那ノ改造ヲ期スルヲ得ザルモノト認ム極東分科會ハ當會議ニ於テ支那ガ速ニ裁兵ヲ断行センコトヲ勸告スル趣旨ノ決議ヲナサ

ンコトヲ提議ストノ決議案文ヲ朗読シ尚敢テ之ヲ以テ支那内政ニ何等干涉セントスルモノニ非ラザル旨付言シテ各國委員ノ意見ヲ求メタルニ支那委員ハ裁兵ハ支那政府及国民ノ切望スル處ナルヲ述べ右提議ニ對シテハ何等反対ナキモ支那委員トシテハ決議ニ加ハラザルコト致シタキ旨述べ英國委員ハ本案ノ趣旨ヲ敷衍シタル後贊同シ其他各國委員モ又異議ナク之ヲ可決セリ

在歐州各大使ヘ転電セリ  
蘭、西ヘ郵送セリ

輸入及出ベシヤ並輸出ノ量キタニ  
在欧各大使へ転電シ蘭 西へ郵報セリ

(別電) フランクノ會議全權發内田外務大臣宛 1月六日着電報  
川四九號  
處境國稅率ニ關スル仮議修正案

外議第II回日本

That principle of uniformity in rates of customs duties levied on all frontiers, land and maritime of China be recognized and that it be referred to a Special Conference mentioned in Paragraph 1 to make arrangements to give practical effect to this principle with a power to authorize any adjustments which may appear equitable in cases in which customs privilege to be abolished was granted in return for some local factor. In the meantime any increase in rates of customs duties or surtax imposed in pursuance of the present agreement shall be levied at uniform rate ad valorem on all frontiers, land and maritime.

Zenken.

127 11年1月6日 (着) フランクノ會議全權  
内田外務大臣宛 (電報)  
中国裁兵問題ニ關スル決議電送ノ件

別電 フランクノ會議全權發内田外務大臣宛 1月六日着  
電報會議第三四七号  
中国裁兵問題ニ關スル閩粵分科会ノ決議

外議第II回日本

(別電) 往電第II回五号末段支那裁兵問題ニ關シ可決セル決議全文  
ハ別電第II回七号ノ通ナリ  
在歐州大使へ転電セラ

蘭 西へ郵送セラ

(別電) フランクノ會議全權發内田外務大臣宛 1月六日着電報會議第  
川四七號  
中國裁兵問題ニ關スル閩粵分科会ノ決議

外議第II回日本

The Chinese Delegate not voting, the following resolution was adopted January 3rd, 1922, to be annexed to the report of the subcommittee on the Chinese revenue and tariff. The members of the subcommittee in studying the question of increasing customs

tariff rates to meet urgent demands of the Chinese Government have been deeply impressed with a severe drain on China's public revenue through the maintenance of the excessive military forces in various parts of the country. The most of these forces are controlled by military chiefs of provinces and their continued maintenance appears to be mainly responsible for China's present unsettled political conditions. It is felt that a large and prompt reduction of these forces will not only advance the cause of China's political unity and economic development, but hasten her financial rehabilitation. Therefore, without any intention to interfere in internal problems of China, but animated by a sincere desire to see China develop and maintain for herself an effective and stable government alike in her own interest and in general interest of trade, and inspired by the spirit of their Conference whose aim is to reduce through the limitation of armament "their enormous disbursement" which "manifestly constitute the greater part

of the encumbrance upon the enterprise and the national prosperity", the subcommittee ventures to suggest for the consideration of the Committee the advisability of laying before the Conference for its adoption a resolution expressing the earnest hope of the Conference and embodying a friendly recommendation to China that immediate and effective steps shall be taken by the Chinese government to reduce the aforesaid military forces and expenditure.

Zenken.

(扣税論文)

十九日11十11年1月川口支那ノ收入及税率ニ關スル海關稅率引上問題ノ研究ニ方リ支那國庫收入カ支那各地ニ於ケル過大ナル軍隊維持ノ為メ夥シク消費セラルル事實ニ依リ深刻ナル感動ヲ受ケタリ此等軍隊ノ大部分ハ各省督軍ノ配下ニアリ其ノ久シキ川口維持セラルルベ支那現在ノ不安定ナル

政情ニ起因スルモノノ如シ此等軍隊ニ速カニ大削減ヲ加フルハ啻ニ支那ノ政治的統一及經濟的發展ヲ助長スル所以タルノミナラス又支那ノ經濟的復活ヲ促進スルヲ得ヘシ故ニモ支那ガ自己ノ利益並ニ一般貿易ノ利益ノ為メニ自ラ有効確実ナル政府ヲ樹立維持スルニ至ラムコトヲ衷心冀望シ且ツ軍備制限ニ依リ所謂「產業及國民ノ繁榮ニ対スル主要障害タル莫大ナル出費」ノ削減ヲ目的トスル本會議ノ精神ヲ体シ支那政府ニ於テ前記軍隊及其ノ費用節減ノ為メ直ニ有効ナル手段ヲ採ラレ度旨ノ支那ニ対スル友誼的勸告ヲ含ミ且ツ本會議ノ熱心ナル希望ヲ表明スル決議ノ採用ヲ本會議ニ提議スルヲ機宜ニ適セリト認メ右ニ対シ敢テ茲ニ委員會ノ考慮ヲ需ム

128 11年1月7日（発）内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛（電報）  
議事録中ニ我ガ方針ヲ留メ置ク様措置方訓令  
ノ件  
會議第二八五号  
貴電會議第三二二号ニ関シ

129 11年1月7日（発）内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛（電報）  
反日宣伝ノ阻止ニツキ中国政府ニ申入レ方訓  
令ノ件  
第一二二号  
客年貴電第八三九号ニ關シテハ追テ篤ト考慮ノ上何分ノ儀  
申進スヘキモ之ニ關連シ往電合第一号（華府全權來電第三  
一号）排日宣伝ノ件ニ付支那政府ノ注意ヲ喚起シ置キ度  
ニ付貴官ハ外交總長又ハ國務總理ニ対シ本件御説明ノ上右  
ハ支那政府當局者ノ言動ニアラサルヲ以テ直接其ノ責ヲ問  
フヘキ筋ニアラサルモ帝国政府ハ終始一貫日支共存共榮ノ  
根本義ヲ體シ極メテ公正ノ態度ヲ以テ今次ノ華府會議ニ臨  
ミ支那ノ正当ナル希望ニ対シテハ恒ニ率先贊同ヲ吝マス以

テ其ノ達成ニ努力セルハ會議ノ経過及実績ノ明カニ証明スル所ニシテ彼ノ対支四大原則ヲ始メトシ外國郵便局撤廃無線電信問題等幾多ノ支那ニ有利ナル決議ノ成立ヲ見タルノ事実ニ顧ミルモ何人モ疑ヲ容ルノ余地ナキ處ナリサレハ同會議ニ於ケル支那側ノ提議カ事毎ニ日本ノ妨害ニ依リテ破レタリト謂フカ如キハ實ニ誣罔ノ甚シキモノト云ハサルヘカラス又閔税率引上問題ノ如キモ日支間ノ貿易關係遙カニ他国ヲ凌駕スルニ顧ミ我方ノ頗ル苦痛ヲ感スル所ナルニ拘ラス難キヲ忍ンテ支那ノ希望ニ副ハムコトヲ努メ居ルハ是亦會議ノ実績ニ徵シ明瞭ニ看取セラルヘキ通ナリ然ルニモ拘ラス支那側ニ恁ル讒誣ノ宣伝ヲ見ルハ我方ノ頗ル意外且遺憾トスル所タルノミナラス為ニ我輿論ヲ刺激シ対支反感ヲ激成スルニ至ラハ帝国政府折角ノ好意的行動モ之ニ掣肘セラルニ至ルナキヲ保セシテ両國ノ為甚タ不利ナル結果ヲ齎スヘシト思考スルニ付支那政府ニ於テモ此ノ点ニ充分留意シ之等有害ナル宣伝ノ阻止方尽力アリ度旨ノ趣旨可然申入レラレ其応答振電報アリ度シ

130 11年1月8日（着）ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

支那ガ其関税行政ニ於テ不公平ナル束縛ヲ受ケ居ルコト明  
トスルヲ以テ条約国全部ノ同意ヲ必要トル税率改定問題  
ナリ各条約国ハ何レモ自國ノ利益ヲ主トシ支那ノ利益ヲ從  
ガ容易ノ業ニ非ラザルコトヲ遺憾トス而シテ現在ノ状態ニ  
テハ或ル特殊ノ事情ノ下ニ与ヘタル特惠モ最惠国条款ニ依  
リ他ノ締約国ノ均霑スル所トナリ支那ハ甚ダ不利ノ地位ニ  
立テリ自分ハ決シテ今回ノ決定ノ価値ヲ定メントスルモノ  
ニ非ズ然レドモ本問題ニ対スル支那ノ立場ヲ一言シ置クコ  
トハ自己ノ義務ナリト信ズト述べ「アンダーウッド」ハ支  
那全權ノ述ブルガ如ク関税自主権ハ自然妥当ノ要求ト言ハ  
ザルベカラズ誠ニ一国ハ其財政監督権ヲ掌握スルノ必要ナ  
ルハ言ヲ俟タズ支那ガ財政自主権ヲ確立スルコト最モ望マ  
シキ次第ナリ若シ支那ノ現状ニシテ許スニ於テハ本會議ガ  
今回ノ決定以上ニ支那ニ有利ナル改定ヲ行フニ躊躇スルモ  
ノニ非ズ然レドモ支那ノ現状不安定ニシテ各地方ハ軍事的  
統治ノ下ニアリ本會議参列諸委員ハ決シテ利己的ノ動機ヲ  
有セズ又支那ノ主権ヲ否認スルモノニ非ザレドモ濫ニ理想  
ニ走ルハ却ツテ支那ノ利益ヲ毒スルモノタルヲ恐ル支那ノ

ナリ各条約国ハ何レモ自國ノ利益ヲ主トシ支那ノ利益ヲ從  
トスルヲ以テ條約国全部ノ同意ヲ必要トスル税率改定問題  
ガ容易ノ業ニ非ラザルコトヲ遺憾トス而シテ現在ノ状態ニ  
テハ或ル特殊ノ事情ノ下ニ与ヘタル特恵モ最惠国条款ニ依  
リ他ノ締約国ノ均霑スル所トナリ支那ハ甚ダ不利ノ地位ニ  
立テリ自分ハ決シテ今回ノ決定ノ価値ヲ定メントスルモノ  
ニ非ズ然レドモ本問題ニ対スル支那ノ立場ヲ一言シ置クコ  
トハ自己ノ義務ナリト信ズト述べ「アンダーウッド」ハ支  
那全權ノ述ブルガ如ク閔稅自主權ハ自然妥当ノ要求ト言ハ  
ザルベカラズ誠ニ一国ハ其財政監督權ヲ掌握スルノ必要ナ  
ルハ言ヲ俟タズ支那ガ財政自主權ヲ確立スルコト最モ望マ  
シキ次第ナリ若シ支那ノ現状ニシテ許スニ於テハ本會議ガ  
統治ノ下ニアリ本會議參列諸委員ハ決シテ利己的ノ動機ヲ  
有セズ又支那ノ主權ヲ否認スルモノニ非ザレドモ濫ニ理想  
ニ走ルハ却ツテ支那ノ利益ヲ毒スルモノタルヲ恐ル支那ノ

トコロナリト述べ之ニ対シ施全權ハ実ハ先程朗読シタル陳述ハ予テ用意シタルモノニシテ昨日ノ起草委員会以来ノ議事進行ニ伴ヒ其ノ一部分ヲ修正スル必要アリタルモ之ヲ失念シタル為メ斯クノ如キ誤謬ヲナセル次第ナリ就テハ警察官及鐵道守備隊ニ関スル一項ダケハ之ヲ自分ノ陳述中ヨリ抹殺シ議事案ニモ載セザルコト致シ度シト弁疏シ「ヒューズ」ハ然ラバ警察官ト治外法權トノ關係並ニ南滿鐵道沿線守備隊ニ関スル施ノ所陳ハ總テ削除然カルベキカト述べ「ルート」氏ハ更ニ armed forces 中ニハ警察官ノミナラズ守備隊モ勿論包含スルモノト諒解スルコト然ルベシ政府ノ使用者ニテ武装ヲ為シ秩序ノ維持ニ任ズルモノハ凡テ之ニ属スヘシト答ヘ「ヒューズ」ハ然ラバ決議案ニ更ニ including police force and railway guards ム明記スヘキカト提議シ埴原ハ先程支那全權陳述中日本ノ南滿鐵道守備隊ハ條約上ノ根拠ナクシテ駐屯スルモノナリトノ一節アリタルガ日本ハ右ハ條約上明カニ定メラレタル権限ニ基クモノナリトノ見解ヲ有スルコトヲ茲ニ言明ス此ノ点ハ曩ニ本委員会ニ於テ言及シタルコトアルガ今日支那全權ノ声明アリ

シト述べ「ヒューズ」ノ提唱ニ依リ右分科会決定中〔協約案往電第一一九五号〕〔「ボルデン」提案ヲ原案トセルモノ〕〔宣言案往電第三〇二二号何レモ滿場一致ヲ以テ通過シ〕決議案往電第三四七号ノ趣旨モ亦採用セラレ更ニ案ノ体裁ヲ整フル為本件分科会ニ再付託ニ決定セリ但シ顧ハ右決議案ノ趣旨ハ支那ノ希望決心ニ一致シ米国其他列國ノ眞意ハ之ヲ諒トスルモ支那ハ決議ニ加ハラザルコトトスベシト述べタリ

二、 外国駐屯軍問題

次デ「ボルデン」ノ注意ニ依リ〔〕ノ決定モ更ニ分科会ニ再付託シテ字句ノ体裁ヲ整フルコトトナレリ

〔五一文書〕

「ルート」ハ往電第三三六号決議案ヲ朗読シタル後元来本件審査ハ之ヲ治外法権委員会ニ付託スル筈ナリシモ支那国民ハ之ヲ喜バザルヘシトノコトナリシヲ以テ北京外交団ト支那官憲トノ協力ニ依リ審査スルコトニ改メ更ニ斯ル審査ヲ支那側ニ強要スルハ面白カラズトノ見地ヨリ支那側ノ希望ヲ待チテ審査スルコトニ決定セリ尚 armed forces ナル語ハ警察官ヲモ包含スル趣旨ヲ明記スルコト然ルベシトノ

リタルニ依リ唯一言日本ノ立場ヲ明カニセント欲ス決シテ

討議ヲ重ネントスルノ趣旨ニ非ラズト述べ次デ支那ヲ除ク

参加各國委員ハ「ヒューズ」修正案ノ通リノ決議案ヲ通過

セリ

更ニ施全權ハ埴原ノ所言ニ對シ更ニ他日應答スルノ權限ヲ  
留保シタシト述べタルニ「ヒューズ」ハ今斯カル留保ヲ唱  
ヘラルハ諒解ニ苦シム所ナリ埴原ハ支那側ノ所言ニ對シ  
日本ノ立場ヲ言明シタルニ過ギス又本決議案ハ駐兵ニ閔シ  
條約ノ根拠ナキモノヲ併記シ居ルニ付其ノ効果ニ依リ或  
ル駐兵ノ合法不法ニ閔シ更ニ討議スルヲ妨グルモノニ非ラ  
ズ将来南滿鉄道沿線守備隊ニ付キ日支両國間ニ意見ヲ交換  
セラルコトハ特ニ茲ニ留保セラル迄モナク差支ヘナキ  
次第ナリト述べ散会

海軍問題ノ討議ヲ進ムル為メ本委員会ハ更ニ議長ヨリ招集  
スル迄無期延期ニ決ス

在歐州各大使ヘ転電シ蘭西ヘ郵報セリ

131 11年1月10日（発）内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛（電報）

陸境關稅特典ノ一律同時廢止ノ解釈確認方ノ

シ在日英國大使ニ所見説明ノ件

別電 一月十二日内田外務大臣発ワシントン會議全權宛  
電報會議第三〇四号  
塩稅剩余ノ使途ニ関スル件

會議第三〇三号

一月九日在本邦英國大使來訪田中次官代理ニ對シ近時在支  
日本銀行ニ於テ支那側ノ塩稅剩余ノ引渡ノ請求ニ對シ之ヲ  
抑留スル事實アルコトヲ指摘シ帝国政府ノ所見ヲ求メタル  
ヲ以テ一月十日同大使ノ來省ヲ求メ次官代理ヨリ塩稅剩余  
ハ日本資本家借款ノ支払財源ニ充當セラル部分相當額ニ  
達シ居レル所支那政府ニ於テハ之カ元利ノ支払ヲ怠リ日本  
資本家ニ於テ甚々迷惑シ居レル実情ニ付支那側ヨリ塩稅剩  
余解除ノ申出アリタル際ニ支日本公使ヨリ敢テ右解除ヲ拒  
絶シタル趣旨ニハアラサルモ同剩余ヲ償還財源トセル日本  
資本家ノ借款ニ幾分之ヲ充当セんコトヲ求メ其間自然解除

ノ遲延ヲ見ルニ外ナラス右ノ措置ハ嚴格ニ云へハ或ハ其當  
否ニ付議論ヲ生スル余地ナキニアラサル可キモ日本政府ト  
シテハ我資本家ノ困難ナル事情ト支那政府財政ノ現状トニ  
顧ミ實際已ムヲ得サル措置ナリト説明シタル所英大使ハ實  
ハ本件ニ付「バルフォア」氏ヨリ來電ノ次第アリ華府會議

會議第二九三号  
件

貴電會議第三四五五号ニ閔シ  
(二二六文書)

該決議ガ英仏兩委員ノ協議ニヨリ成立シタル經緯ニ鑑ミ右  
ハ例ヘハ仏支又ハ英支陸境ニ於ケルカ如ク仏領印度支那側  
又ハ英領緬甸側ニ於テ支那ヨリノ輸入品ニ對シ關稅通過稅  
等ニ付一定ノ特典ヲ与ヘタルニ對シ支那側ニ於テ輕減率ヲ  
与ヘタル場合（一八九四年統議滇緬界商務条款及一八九七年  
中緬條約付款一八八四、五、六年仏支天津條約）ノミニ  
就テハ或種ノ「アチャストメント」ヲ行フモ滿鮮陸境關稅  
ニ就テハ之ヲ行ハザルモノト解セラル處果シテ然リトセ  
ハ右「アチャストメント」次第ニテ往電會議第二四一號我  
方針第一輕減率ノ廢止ハ各陸境一律ニ且同時ニ之ヲ行フヘ  
シトノ趣旨ハ今後開催セラルヘキ特別委員会ニ於テ没却セ  
ラル虞アル次第ナルニ付旁々今後ノ参考トシテ右解釈ヲ  
確メ置キタク何分ノ貴見電報アリタシ

132 11年1月11日（発）内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛（電報）

在中国日本銀行ノ塩稅剩余引渡拒否問題ニ閔

ニ於テ問題トナルヘク支那側ヨリ塩稅剩余解除ノ申出アリ  
タル時ハ外國銀行ニ於テ之ヲ抑留スルヲ得サルコトトスル  
提議アルトキハ日本側ニ於テ之ニ贊同セラルヘキヤト質問  
シタルヲ以テ次官代理ヨリ一己ノ私見トシテ目下塩稅剩余  
解除ニ付日本側ノ取り居レル措置ハ前陳ノ通ニシテ右ノ如  
キ提案ニハ直ニ同意スルコト困難ナルヘシト思考スル旨答  
へ置キタリ就テハ若シ本件ニシテ何等問題トナリタルトキ  
ハ別電第三〇四号列記ノ事實御承知ノ上前記ノ趣旨ニ依リ  
可然御應酬相成リタシ

右別電ト共ニ英仏ヘ転電アリタシ  
(別電)  
一月十二日内田外務大臣発ワシントン會議全權宛電報會議第  
三〇四号  
塩稅剩余ノ使途ニ関スル件

第三〇四号 別電

一、 塩稅剩余ヲ支払財源トセル外國借款ハ  
〔〕日本側約二千三百万円

〔〕英國側約二百五十萬元  
ニシテ其他露仏ノ分若干アリ

四 中國ニ関スル諸問題 (II)

一一九二

ノ整理ヘ主トシテ関税剩余ヲ以テ之ニ充テ塩税剩余ハ之ヲ補足スルモノトナシアル所関税剩余モ現ニ多額ニ達シ

香上銀行ニ於テ之ヲ保管シ居レルニ係ラス支那側ニテハ塩税剩余解除請求ニ当リ同剩余ノ大部分ヲ内債整理基金ニ充テノコトヲ主張シ居レリ

三、支那側ハ塩税剩余解除ニ当リ優先的ニ若クハ大部分ヲ内債整理基金ニ充ツルコトヲ求メ居レルニ対シ日本公使ハ右ノ通延滞セル外債ヲ差置キ塩税剩余ヲ以テ優先ニ内債ヲ整理スルハ不公平ニ付両者均等ノ取扱ヲ求メ居レルモノナリ

四、「アグレン」ハ関税剩余ヲ其勢下ニ収メ更ニ内債整理ニ依リ塩税剩余ニモ手ヲ染メントスル魂胆アルモノノ如ク思惟セラレ今回英國大使申出モ或ハ「アグレン」辺ノ差金ニ基クモノニアラナルカト思考セラル

133 11年1月13日(着) ワシントン會議全權内田外務大臣宛(電報)

陸境関税輕減率ノ一律同時廢止実施ノ解釈 II

関スル件

別電 ワシントン會議全權内田外務大臣宛(1月13日)

(別電)

ワシントン會議全權内田外務大臣宛(1月13日着電報會議)

第四〇〇号

陸境関税輕減率廢止問題ニ關スル本邦委員ノ陳述

會議第四〇〇号 別電

With reference to the abolition of reduction of duties on goods imported into China or exported from that country by land, Japan is ready to agree to the proposal if all other countries concerned, that is,

Great Britain, France, and Russia, likewise agree; provided that the proposed abolition be carried out simultaneously on all frontiers of China, and further provided that, in view of the present state of affairs in Russia, China give a special guarantee for the abolition of land customs duties on the Russo-Chinese frontier, and also provided that the proposed abolition be brought into force from the date on which the proposed surtax shall be carried into effect. (以下省略)

Zenken.

着電報會議第四〇〇号

陸境関税輕減率廢止問題ニ關スル本邦委員ノ陳述

會議第三九九号(文書)

貴電會議第二九三号ニ關シ

我方委員ハ關税問題第四回分科会ニ於テ別電第四〇〇号ノ通リ陳述シ之ヲ議事録ニ止メ且ツ本件ガ第五回分科会ニ於テ決定セラル際ニモ更ニ我方主張ヲ確カメ置キタルニ依リ輕減率廢止ハ各地方トモ一律且ツ同時ニ実施セラルベキモノナルハ明白ナリ尤モ英仏關係トシテハ輕減率廢止ニ関スル「アジャストメント」トシテ從来其ノ反対給付ニ依リ与ヘラレタル特典ヲ取消シ又ハ右特典ハ其ノ儘トシ更ニ輕減率ノ代リニ何等カ地方的利益ヲ認メシムルニ至ルヤモ計ラレズ然シ乍ラ從來何等ノ特典ヲ支那側ニ与フルコトナク実施セラレタル鮮満輕減率ニ關シテハ之ガ廢止ノミヲ条件トシテ何等地方的利益ヲ認メシムルガ如キ「アジャストメント」ヲ行フノ余地ナキト共ニ若シ英仏側ト等シク我方ヨリモ今後相當ノ特典ヲ与フルニ於テハ關税以外ノ事項ニ付ム

134 11年1月13日(着) 在仏國佐藤代理大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

陸境関税輕減率廢止問題ニ關スル本邦委員ノ陳述

第111号

(1月11日パリ発)

川島ヨリ田中次官心得ニ

華府會議審議中ノ支那關税問題ニ關シ

第一、大臣堯代表電報第一五四号末段記載ノ通最近兩年度

統計ヲ基礎トスル支那關稅引上率ハ現行ノモノニ比シ平

均五割増位ナルヘク從テ一見我カ原提案ニ依ル現行率ニ

対シ五割ノ付加稅ヲ課スル場合ト大差ナキカ如キモ本邦

對支輸出品殊ニ綿糸綿織物等個々ノ物品ニ付計算スルト

キハ兩者關稅引上方法ノ間ニ甚敷懸隔アルハ大ニ注意ヲ

要スル点ニモアリ前者ニ依リテ現実ノ五分ニ換算スルト

キハ綿糸等ノ稅率ハ現行ノモノニ比シ約一・三倍トナル

ヘシト思考ス是本邦物価ハ歐州開戰前後ハ余リ高カラサ

リノモ戰爭終局後ニ至リ甚敷暴騰セシカ為ニ有之要スル

改訂ハ歐州品ニ有利トナリ之ニ反シ現行率ヲ基礎トスル

付加稅ハ本邦品ニ利ナル關係アルニ付在支公使發大臣宛

往電第八三九号<sup>(一三三文書)</sup>支那財政上ノ窮乏及戰後物価ノ不安定從  
テ適當ナル税率算出ニ標準年度決定ノ困難等ヲ理由トシ  
今後共何等力交渉上ノ機会ヲ捉ヘ前記付加税説ヲ採用セ  
シムル様努ムルコト得策ト思考ス

二、「ボーデン」決議案第一及第三ニ付テハ甲收入関税ト  
シテ酒、煙草、砂糖ニ対シ特別税ヲ課スルコト（本件ニ  
付テハ所謂奢侈品関税ト分チ仏國ノ反対ヲ緩和スルコト  
並ニ支那内地生産品ニモ同様ノ加税ヲ設クルコトトナル  
コト可ナルヘシ）（乙）輸入品種類ニ付等差关税ノ主義ヲ採  
用スルコト（丙）重要原料品ハ輸出税ヲ免除セシムルコト（丁）  
外国人中支那内地ニ工業經營者出来得ヘクンハ農工業及  
ヒ其ノ他ノ産業權ヲモ付与スルコト（戊）支那税関ニ於テ外  
国人ノ任用ヲ各國貿易額ニ比例セシムルコトヲ主張スル  
コト必要ナルヘク殊ニ或種ノ工業ハ本邦人ニ於テ支那ニ  
來リ經營スルニ非サレハ到底收支償ハサルヘキモノ今後  
続々生スヘキニ付（丁）項ノ点ハ最モ重視スルヲ要シ少ナク  
トモ最近ノ機会ニ於テ支那ヲシテ開港地外一定区域ヲ工  
場地トシテ開放セシムルコト絶対ニ必要ナリト思考ス尚  
ホ右ノ如ク支那内地開放ノ為ニハ領事裁判權ノ一部即警

察權、課稅權又ハ進シテ第一審裁判權ヲモ撤廢スルモ差  
支ナシト思考ス

以上既ニ御心付ノ点ナランモ小官關係シ居リタル行掛リ上  
念ノ為申進ス

135 11年1月14日（発）内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛（電報）

陸境關稅ノ廢止ニ關スル本邦委員陳述ノ解釈

ニツキ英米仏三国委員ノ了解取付方ノ件

貴電會議第三九九号ニ關シ

第四回分科會ニ於ケル陳述及第五回分科會ニ於ケル我主張  
ノ再度ノ陳述ハ尤モノコトナカラ右ハ單ニ我方ノ主張ニ止  
マリ會議全員ノ賛成シタル貴電會議第三四五号ノ決議ノ効  
力ヲ左右シ得サルモノト思考セラル處右決議ノ單純ナル  
文理解釈トシテハ any adjustment ナル文字ハ輕減率全廢  
ノ代リニ英仏ノ閏スル限り輕減率ヲ緩和シテ例へハ五分ノ  
一又ハ十分ノ一トスルノ意トモ解セラレ從テ我方ノ各陸境  
一律且同時ナル条件ハ他日特別委員會ニ於テ該決議ヲ根拠  
トセル英仏側ノ議論ノタメ葬リ去ラル虞ナキニアラス右

ハ或ハ杞憂ニ属スル義ナルヘキモ本件陸境關稅廢止ニ關ス  
ル本邦ノ立場ニ顧ミ予メ万全ヲ期スルノ趣旨ニ於テadjust-  
ment ハ輕減率ニ全然關係ナシトノ貴電會議第三九九号ノ  
解釈ニ付此際何等カノ形式ニテ會議全員ノ諒解ヲ取付ケ置  
キタキニ付テハセメテ英米仏三国委員ヨリノ文書ニ依ル承  
認ニテモ會議終了前取付ケ置カルル様致度ク結果電報アリ  
タシ

136 11年1月17日（着）ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

第六回關稅問題起草委員會ニ於ケルボーデン

決議案ノ修正ニ關スル件

會議第四二二号

極東分科委員會第五、一月十四日第六回起草委員會開会

仏國「デュシェース」出席其他前回ノ通リ支那關稅問題ニ  
關スル第十七回總委員會ノ決議ニ基ヅキ審議ノ結果

「ボルデン」原案ヲ修正ノ上決定セル決議事項九項ノ中現  
実五分改訂ノ件ハ現存條約ノ規定ニ基ヅクモノナルヲ以テ  
別ニ之ヲ切り離シテ單ナル決議トナスコトトナリ他ノ八項  
ハ之ニ批准手續ニ關スル規定ヲ加ヘテ九ヶ条ヨリ成ル條約

（コンベンション）ノ形式ヲ採用スルコトトナレリ而シテ  
多少字句ノ修正アリタルモ其内容ニ付テハ會議往電第三〇  
二号報告ト異ナルトコロナキモ

一、會議往電第三〇二号第一及第三ニ關スル特別會議ハ本  
協約ノ批准交換後三ヶ月以内ニ支那政府ノ指定スペキ支  
那ニ於ケル場所及時日ニ於テ之ヲ開催スルコト

二、前条第一中ニ引用セル英清條約ノ条項ニ付テハ其第八  
一条ヲ米清條約ハ其第四条及第五条ヲ又日清追加條約ハ其  
第一条ヲ夫々明記スルコトトナセルコト

三、批准交換ハ普通條約ノ場合ノ手續ニ依ルコトトシ追テ  
字句ヲ插入スルコトナレリ

137 11年1月17日（着）ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

第六回關稅問題起草委員會ニ於テ決定セル

國關稅問題ニ關スル協約文案報告ノ件

別電 ワシントン會議全權發内田外務大臣宛一月十七日  
着電報會議第四二七号  
中國關稅問題ニ關スル協約文案

會議第四二六号（大至急）

四 中國ニ關スル諸問題（三）

在歐州各大使へ転電シ在蘭公使在西公使へ郵報セリ

ワシントン會議全權發内田外務大臣宛一月十七日着電報會議  
第四二七号  
中国關稅問題三閔スル協約文案

會議第四二七號 別雷

With a view to increasing the revenues of the Chinese Government, the United States of America, Belgium, the British Empire, China, France, Italy, Japan, the Netherlands, and Portugal agree:

1. That immediate steps be taken through a Special Conference to be composed of representatives of the Contracting Powers, and other Powers which adhere to this convention, to prepare the way for the speedy abolition of Ilikin and for the fulfilment of the other conditions laid down in Article 8 of the Treaty of September 5, 1902, between Great Britain and China, in Articles 4 and 5 of the Treaty of October 8, 1903, between the United States and China, and in Article 1 of the Supplementary Treaty of October 8,

shall not exceed five per cent.

3. That following the immediate revision of the customs schedule of duties on imports into China as provided for in a resolution adopted by the representatives of all Powers signatory to this Convention at a plenary session of the Conference on the limitation of armament held in the city of Washington on the . . day of January, 1922, there shall be a further revision to take effect at the expiration of four years following the completion of the aforesaid revision, in order to ensure that the customs duties shall correspond to the ad valorem rates fixed by the Special Conference herein provided for.

That following this revision there shall be periodical revisions of the customs schedule of duties on imports into China every seven years for the same purpose, in lieu of the decennial revision authorized by existing treaties with China.

levying the surtaxes provided in those articles.

The Special Conference shall meet in China within 3 months after the date of the ratification of this Convention on a day and at a place to be designated by the Chinese Government.

2. The Special Conference shall consider the interim provisions to be applied prior to the abolition of likin and the fulfilment of the other conditions laid down in the articles of the treaties above mentioned; and it shall authorize the levying of a surtax on dutiable imports as from such date, for such purposes, and subject to such conditions as it may

The surtax shall be at a uniform rate of 2- $\frac{1}{2}$  per cent ad valorem excepting the case of certain articles of luxury which, in the opinion of the Special Conference, can bear a greater increase without unduly impeding trade, and upon which the total surtax

revisions shall be effected with rules to be settled by the special condition mentioned in Article 1 herein.

4. That in all matters relating to customs duties there shall be effective equality of treatment and of opportunity for all Powers parties to this Convention.

5. That the principle of uniformity in the rates of customs duties levied at all the land and maritime frontiers of China is hereby recognized; that the Special Conference above provided for shall make arrangements to give practical effect to this principle; and it is authorized to make equitable adjustments in those cases in which the customs privilege to be abolished was granted in return for some local economic advantage.

In the meantime, any increase in the rates of customs duties resulting from tariff revision or any surtax hereafter imposed, in pursuance of the present

Convention, shall be levied at a uniform rate ad valorem at all land and maritime frontiers of China.

6. That the charge for transit passes shall be at the rate of 2-½% ad valorem until the arrangements contemplated in Article 1 herein come into force.

7. That the Powers not signatory to this Convention but whose present treaties with China provide for a tariff on imports and exports not to exceed 5% ad valorem shall be invited to adhere to the present Convention, and upon such adherence by all of them this Convention shall override all provisions of treaties between China and the respective Contracting Powers which are inconsistent with its terms.

That the United States Government, as convener of the present Conference, undertakes to make the necessary communications for this purpose and to inform the Governments of the Contracting Powers of the replies received.

#### 8. Ratification clause of usual form.

##### Separate Resolution

That the Government of the United States, as convener of the present Conference, be requested to communicate forthwith the terms of the agreement arrived at with regard to the Chinese tariff to the Governments of Powers not represented at the Conference, which have treaty rights on the matter, with a view to obtaining their adherence to the agreement as soon as possible.

Zenken.

138 11年1月21日 (着) トシノヘテノ會議全權  
内田外務大臣宛 (電報)

第十八回極東問題總委員会ニ於テ關稅問題 II  
關スル決議案ノ修正可決及シ門口開放ニ關ヘ  
ルニアーズ決議案提出ノ件  
別電 I ワシントン會議全權發内田外務大臣宛 1月21日  
中國關稅ノ改定ニ關スル決議案  
II ワシントン會議全權發内田外務大臣宛 1月21日

テヘ如何ト問ヒ「ルニアーズ」ヘ波蘭芬蘭等ノ如ク關係國政府ニ於テ承認ヲ与ヘタルモノハ總テ含マルモノト思考スト答く「アンダーウッド」ハ支那ヘ由來主權國トシテ關稅

自主權ヲ有スル所條約ニ依リテ右權利ノ一部ヲ失ナフモノナルヲ以テ支那ト条約關係ナキ諸國ニ於テハ關稅ニ關スル支那政府ノ決議ニ付何等苦情ヲ申込ムベキ筋合ヒナシト述ブ支那委員ハ本決議ハ條約國ノミニ關スルモノニシテ無條約國ニ付テハ現実五分以上ノ高率ヲ規定シアリ門口開放主義ハ右無條約國ヲ本決議シリ除外スルコトヲ妨格ルモノニアリ不都合ナリムハ additional Powers, ハ後ハ having Governments at present recognized by the Governments represented at the present Conference ハ在那ベシハテノ修正意見ヲモ併セ報告シ右改議案採否ヲ委員会ニ問ヒタルハ白耳義代表者ハ「ルクサンブルグ」公國ヘ右改定委員会参加國中ニ含マルベキヤム問ヒ「ルニアーズ」ハ何レニアモ反対ナキ限り參加シ得ルモノト認ムト答ヘ又和蘭代表者ハ修正意見中 at present ヘ文句ハ何ノ必要アリヤト問ヒ「ルニアーズ」ハ右ハ将来認メハルルコトアルベキ政府ハ度外ニ置キ現ニ招請ヲ發スベキ國家ノ範囲ヲ明確ニスル趣旨ナリト答ヘ加奈陀代表者ハ且處西亞ヨリ分立セル諸國ニ付

く「ボルダーン」ハ強テ修正案ヲ固執セズ其ノ儘可決セリ此文案案ノ字句ヲ存スルモ必ズシモ四ヶ年内ニ税率ノ決定ヲ必要トスル趣旨ニ非ザルコト明カトナレルヲ以テ埴原ハ何等問題ヲ提起セザルコトセリ尚協約案第五条中ノ *adjustments* 付テハ已ニ英、仏及日本側主張ニ関スル議事録ニ依リ明白ナルモ特ニ貴電(明文書)第三二八号ヲ以テ御来示ノ次第セアリタルヲ以テ會議前埴原ヨリ「ボルダーン」ニ対シ内話ヲ試ミタルニ「ボ」ハ該条項ハ元来仏國ノ反対アリテ纏り兼ネタルモノヲ漸ク妥協的ニ条文トナセルモノナリ從ツテ一切ノ協議ハ擧ゲテ特別會議ニ讓ラントスル趣旨ナルニ付此際何等問題ヲ提起シ議論ノ再起ヲ生ゼシメザランコトヲ希望スト述べタリ依テ我方ヨリハ此点ニ付會議ニ於テ問題ヲ起サザルコトトセリ

次ニ往電第四二七号末段ノ決議案ハ其ノ中 *Governments of Powers* 以テ on the matter迄ノ削リ concerned as stated in the resolution 加フルコトム可決セリ

〔〕次ニ「ヒョーベ」ハ前回支那委員ヨリ二十一個要求問題ノ提出アリタル處右ハ山東問題ニ関係アルニ付暫ク討議ヲ見合セ度シ勢力範囲問題ニ就テモ同様ナリ從テ本日ハ米

解釈上将来問題発生スベキハ「ゲデス」ノ言ノ如クナルモ右ハ本會議採用ノ幾多ノ決議ニ付同様ナリ特別ノ諮問機関ヲ設クルハ適當ノ処置ナルベシ本決議案ノ趣旨ハ一般総括的優越權ノ確立ヲ禁止スルノミニシテ個々ノ企業ニ関シ関係国ニ対シテ何等特別ノ義務ヲ負ハスモノニ非ズト答フ「ベルフォア」ハ英國政府ニ於テハ已ニ明確ニ勢力範囲ヲ否認シ居リ本決議案ノ趣旨ハ一般ノ確認スル處ニ係リ何等問題トスルヲ要セズ之レ英國代表者ガ單ニ特別ノ場合ノハシ言及セル所以ナリ惟フニ本決議案ノ主義実行ニ付キテノ困難ハ或種ノ独占ヲ必要トスル企業ニ之ヲ適用セントスル場合ニ生ズ例ヘバ鉄道敷設ノ場合自由ニ平行線ヲ許可スベシメヤベ何人モ該事業ヲ企ツルモノナカル可シ電信事業ニ付テモ亦然リ右ノ如キ企業ハ他ニモ多々之アル可ク之レ本決議案ニ関連シ最モ重要ノ点ニシテ「ヒョーベ」氏提案未段ハ右ノ点ヲ考慮シ實際ノ必要ニ適応セントシタルモノノ思考ス前段ニ付テハ英國代表者ハ全幅ノ贊意ヲ表スト述べ「ヒョーベ」ハ勢力範囲ニ關スル「ベルフォア」ノ詔明ヲ多トシ極メテ満足ノ意ヲ表シタル後個々ノ企業ニ関シ充分ナル留保ヲ為スノ必要ヲ認メ右ニ關シ特殊機關ノ設置等何

国提案議題ノ順序ニ依リ門戸開放、機會均等ノ主義ヲ討究

ヤンヌ本件ハ其次ノ題目タル Concession, economical privileges ト密接ノ関係アルヲ以テ兩者ヲ合セト一ノ

般的決議ヲ採用スル時ハ煩雜ヲ防グノ利益アルベシトテ別電第四四八号ノ如キ決議案ヲ提出シ抑々門戸開放、機會均等ノ主義ハ關係諸國ニ於テ既ニ認メタル處ニシテ本會議ニ於テモ續ニ一般原則トシテ之ヲ採用シタリ右原則適用ノ結果自然特定国ニ対シ何等 special concession 又ハ獨占的優越權ヲ与フル事ヲ許サザルベキハ明ナルモ本決議ハ右ノ点ニ關シ「ルート」原則ヨリモ今少シク立入りタル宣言ヲ為サントスルモノニシテ關係諸國ニ於テ支那ニ關シ何等一般的優越權又ハ獨占的特權ヲ獲得セザルベキ事ヲ約スルニアラズハ門戸開放、機會均等ノ原則モ実ハ空名タルニ終ルベシ本決議ハ右兩原則ト離レ別ニ exclusive ノ決議ヲ成立セシメントスルニアラズト説明シ右ニ付シ「ゲデス」ハ本案ノ趣旨ハ極メテ明瞭ナルモ最後ノ個々ノ企業除外ニ關シテハ何等力簡単ナル特別ノ諮問機関ヲ設備スルノ必要無キヤ又商標權・版權・鉱業權等ニ對シテハ當然保護ヲ与フルヲ要スト論シ「ヒョーベ」ハ個人企業保護ニ關シ本決議ノ

等カ實際的方法ヲ講ズルコト然ル可シト述べ散会ス次回ハ十七日午後開会ノ筆  
在歐州各大使ニ転電セリ

(別電)  
ワシントン會議全權發内田外務大臣宛一月二十一日着電報会  
議第四四七号  
中國關稅ノ改訂ニ關スル決議案

會議第四四七号

Resolution on the revision of the Chinese Tariff.

With a view to providing additional revenue to meet the needs of the Chinese Government, the Powers represented at this Conference, namely the United States of America, Belgium, the British Empire, China, France, Italy, Japan, the Netherlands, and Portugal, agree:

That the Customs schedule of duties on imports into China adopted by the Tariff Revision Commission at Shanghai on December 19, 1918, shall forthwith be revised so that the rates of duty shall be equivalent to 5 per cent effective, as provided for

In the several commercial treaties to which China

is a party.

A Revision Commission shall meet at Shanghai, at the earliest practicable date, to effect this revision forthwith and on the general lines of the last revision.

sion.

This Commission shall be composed of representatives of the Powers above named and of repre-

sentatives of any additional Powers who have treaties with China providing for a tariff on imports and exports not to exceed 5 per cent ad valorem and who desire to participate therein.

The revision shall proceed as

with a view to its completion within four months from the date of the adoption of this Resolution by the Conference on the Limitation of Armaments and Pacific and Far Eastern Questions.

The revised tariff shall become effective as soon as possible but not earlier than two months after

their interests any general superiority of rights with respect to commercial or economic development in any designated region of the territories of China or which might seek to create any such monopoly or preference as would exclude other nations from undertaking any legitimate trade or industry or from participating with the Chinese Government in any category of public enterprise, it being understood that this agreement is not to be so construed

rights as may be necessary to the conduct of a particular commercial or industrial undertaking.

(右和訳文)

總テノ國民ノ商業上ノ門戸開放或ハ機會均等ノ主義ヲ一層有効ニ適用スルノ目的ヲ以テ本會議參加國ハ支那領土ノ如何ナル特定ノ地域ニ於テモ商業或ハ經濟ノ發展ニ付自己ノ利益ノ為ニ何等一般的優越權ヲ設定セントスル協定又ハ他国ガ適法ナル商工業ヲ營ミ若ハ其ノ種類ノ如何ヲ問ハズ

The Government of the United States, as con-  
venor of the present Conference, is requested forth-  
with to communicate the terms of this Resolution  
to the Governments of Powers not represented at  
this Conference but who participated in the Revision  
of 1918, aforesaid.

LEMKEL.

(別電二)  
ワシントン会議全権発内田外務大臣宛一月二十一日着電報会  
議第四四八号  
門戸開放ニ関スルヒューズ決議案

With a view to applying more effectually the principle of the open door or equality of opportunity for the trade and industry of all nations, the Powers represented in this Conference agree not to seek or to support their nationals in asserting any arrangement which might purport to establish in favor of

公共企業ヲ支那政府ト共同經營スルコトヲ排除スルガ如キ  
独占權或ハ優先權ヲ創設セムトスル協定ヲ求メズ又斯ル協  
定ニ基ク其ノ人民ノ主張ヲ支持セザルコトヲ合意ス  
但シ本協定ハ特定ノ商工業ノ經營ニ必要ナル財産或ハ權利  
ノ取得ヲ禁スルモノト解スルヲ得ズ

11年1月24日(発) 内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛 (電報)  
中國關稅ノ改訂ニ關スル決議案承認ノ我方國

卷之四

貴電會議第四四七号二閏シ  
(二三八文書)

タル上改メテ支那ニ対シ承認ヲ与ハルコトヲ必要トスルモノニシテ前例モ亦右ノ通ナル處本件決議中 The revision tariff shall become effective as soon as possible ナルハ我方ニ於テ右承認ニ関スル手続ヲ執ルコトヲ妨ケサル義ト認メラルモ念ノ為貴見電報アリタシ

四 中国ニ関スル諸問題(三)

140 11年2月6日（着）カムバトナシ議会議事録

内田外務大臣宛（電報）  
条約起草分科会及最終極東問題総議會

於中國税條約議事録ノ件

會議第六一〇号

本三月六日前開會條約起草分科会及午後二於ケル最終極東問題總委員会ニ於テ議了セル支那関稅ニ關スル條約案全文別電第六一號ノ通リナルガ右ハ明四日公開總会ニ於テ報告裁決シ六日午前調印ノ旨  
尚現実五分改訂ノ件ヲモ條約ノ一条ト為セルハ米國ハ國法上之ヲ條約ト為スヲ要セルニ依ル右條項記議ノ際墳原ハ帝國國法ニ於テハ批准ヲ要セザルモ枢密院ニ諮詢スルヲ要ヘル眞明リナシ置ケラ

~~~~~

141 11年2月6日

中國へ認税ニ認ムニ參照

TREATY BETWEEN THE NINE POWERS  
CONCERNING THE CHINESE CUSTOMS  
TARIFF.

With a view to increasing the revenues of the Chinese Government, have resolved to conclude a treaty relating to the revision of the Chinese customs tariff and cognate matters, and to that end have appointed as their Plenipotentiaries:

The President of the United States of America:

Charles Evans Hughes,  
Henry Cabot Lodge,  
Oscar W. Underwood,

Elihu Root,

citizens of the United States;

His Majesty the King of the Belgians:  
Baron de Cartier de Marchienne, Commander  
of the Order of Leopold and of the Order  
of the Crown, His Ambassador Extraordi-

nary and Plenipotentiary at Washington;

His Majesty the King of the United Kingdom  
of Great Britain and Ireland and of the British Domi-  
nions beyond the Seas, Emperor of India:

The Right Honourable Arthur James Balfour,  
O. M., M. P., Lord President of His Privy

Council;

The Right Honourable Baron Lee of Fare-  
ham, G. B. E., K. C. B., First Lord of His

Admiralty;

The Right Honourable Sir Auckland Campbell Geddes, K. C. B., His Ambassador Extraordi-  
nary and Plenipotentiary to the

United States of America;

and

for the Dominion of Canada:  
The Right Honourable Sir Robert Laird

Borden, G. C. M. G., K. C.;  
for the Commonwealth of Australia:  
The Right Honourable Alfred Sze, Envoy Extraordi-

inary and Minister Plenipotentiary at Lon-  
don;

Signed at Washington, February 6, 1922.

The United States of America, Belgium, the  
British Empire, China, France, Italy, Japan, the  
Netherlands and Portugal:

don;

Mr. Chung-Hui Wang, former Minister of Justice;

The President of the French Republic:

Mr. Albert Sarraut, Deputy, Minister of the Colonies;

Mr. Jules J. Jusserand, Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary to the United States of America, Grand Cross of the National Order of the Legion of Honour;

His Majesty the King of Italy:

The Honourable Carlo Schanzer, Senator of the Kingdom;

The Honourable Vittorio Rolandi Ricci, Senator of the Kingdom, His Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary at Washington;

The Honourable Luigi Albertini, Senator of the Kingdom;

Jonkheer Willem Hendrik de Beaufort, Minister Plenipotentiary, Chargé d'Affaires at Washington;

The President of the Portuguese Republic:

Mr. José Francisco de Horta Machado da Franca, Viscount d'Alte, Envoy Extraordinary and Minister Plenipotentiary at Washington;

Mr. Ernesto Julio de Carvalho e Vasconcelos, Captain of the Portuguese Navy, Technical Director of the Colonial Office;

Who, having communicated to each other their full powers, found to be in good and due form, have agreed as follows:

Article I.

The representatives of the Contracting Powers having adopted, on the fourth day of February, 1922, in the City of Washington, a Resolution, which is appended as an Annex to this Article, with respect

to the revision of Chinese Customs duties, for the purpose of making such duties equivalent to an effective 5 per centum *ad valorem*, in accordance with existing treaties concluded by China with other nations, the Contracting Powers hereby confirm the said Resolution and undertake to accept the tariff rates fixed as a result of such revision. The said tariff rates shall become effective as soon as possible but not earlier than two months after publication thereof.

Annex.

With a view to providing additional revenue to meet the needs of the Chinese Government, the Powers represented at this Conference, namely the United States of America, Belgium, the British Empire, China, France, Italy, Japan, the Netherlands, and Portugal agree:

That the customs schedule of duties on imports into China adopted by the Tariff Revision Commission at Shanghai on December 19, 1918, shall forth-

His Majesty the Emperor of Japan;

Baron Tomosaburo Kato, Minister for the Navy, Junii, a member of the First Class of the Imperial Order of the Grand Cordon of the Rising Sun with the Paulownia Flower;

Baron Kijuro Shidehara, His Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary at Washington, Joshi, a member of the First Class of the Imperial Order of the Rising Sun;

Mr. Masanao Hanihara, Vice Minister for Foreign Affairs, Jushii, a member of the Second Class of the Imperial Order of the Rising Sun;

Her Majesty the Queen of the Netherlands: Jonkheer Frans Beelaerts van Blokland, Her Envoy Extraordinary and Minister Plenipotentiary;

with be revised so that the rates of duty shall be equivalent to 5 per cent. effective, as provided for in the several commercial treaties to which China is a party.

A Revision Commission shall meet at Shanghai, at the earliest practicable date, to effect this revision forthwith and on the general lines of the last revision.

This Commission shall be composed of representatives of the Powers above-named and of representatives of any additional Powers having Governments at present recognized by the Powers represented at this Conference and who have treaties with China providing for a tariff on imports and exports not to exceed 5 per cent. *ad valorem* and who desire to participate therein.

The revision shall proceed as rapidly as possible with a view to its completion within four months from the date of the adoption of this Resolution by

in Article I of the Supplementary Treaty of October 8th, 1903, between Japan and China, with a view to levying the surtaxes provided for in those articles.

The Special Conference shall be composed of representatives of the Signatory Powers, and of such other Powers as may desire to participate and may adhere to the present Treaty, in accordance with the provisions of Article VIII, in sufficient time to allow their representatives to take part. It shall meet in China within three months after the coming into force of the present Treaty, on a day and at a place to be designated by the Chinese Government.

#### Article III.

The Special Conference provided for in Article II shall consider the interim provisions to be applied prior to the abolition of likin and the fulfilment of the other conditions laid down in the articles of the treaties mentioned in Article II; and it shall authorize the levying of a surtax on dutiable imports

the Conference on the Limitation of Armament and Pacific and Far Eastern Questions.

The revised tariff shall become effective as soon as possible but not earlier than two months after its publication by the Revision Commission.

The Government of the United States, as convenor of the present Conference, is requested forthwith to communicate the terms of this Resolution to the Governments of Powers not represented at this Conference but who participated in the Revision of 1918, aforesaid.

#### Article II.

Immediate steps shall be taken, through a Special Conference, to prepare the way for the speedy abolition of likin and for the fulfilment of the other conditions laid down in Article VIII of the Treaty of September 5th, 1902, between Great Britain and China, in Articles IV and V of the Treaty of October 8th, 1903, between the United States and China, and

as from such date, for such purposes, and subject to such conditions as it may determine.

The surtax shall be at a uniform rate of 2½ per centum *ad valorem*, provided, that in case of certain articles of luxury which, in the opinion of the Special Conference, can bear a greater increase without unduly impeding trade, the total surtax may be increased but may not exceed 5 per centum *ad valorem*.

#### Article IV.

Following the immediate revision of the customs schedule of duties on imports into China, mentioned in Article I, there shall be a further revision thereof to take effect at the expiration of four years following the completion of the aforesaid immediate revision, in order to ensure that the customs duties shall correspond to the *ad valorem* rates fixed by the Special Conference provided for in Article II.

Following this further revision there shall be,

for the same purpose, periodical revisions of the customs schedule of duties on imports into China every seven years, in lieu of the decennial revision authorized by existing treaties with China.

In order to prevent delay, any revision made in pursuance of this Article shall be effected in accordance with rules to be prescribed by the Special Conference provided for in Article II.

#### Article V.

In all matters relating to customs duties there shall be effective equality of treatment and of opportunity for all the Contracting Powers.

#### Article VI.

The principle of uniformity in the rates of customs duties levied at all the land and maritime frontiers of China is hereby recognized. The Special Conference provided for in Article II shall make arrangements to give practical effect to this principle, and it is authorized to make equitable adjustments

The Government of the United States undertakes to make the necessary communications for this purpose and to inform the Governments of the Contracting Powers of the replies received. Adherence by any Power shall become effective on receipt of notice thereof by the Government of the United States.

#### Article IX.

The provisions of the present Treaty shall override all stipulations of treaties between China and the respective Contracting Powers which are inconsistent therewith, other than stipulations according most favored nation treatment.

#### Article X.

The present Treaty shall be ratified by the Contracting Powers in accordance with their respective constitutional methods and shall take effect on the date of the deposit of all the ratifications, which shall take place at Washington as soon as possible. The Government of the United States will transmit to

in those cases in which a customs privilege to be abolished was granted in return for some local economic advantage.

In the meantime, any increase in the rates of customs duties resulting from tariff revision, or any surtax hereafter imposed in pursuance of the present Treaty, shall be levied at a uniform rate *ad valorem* at all land and maritime frontiers of China.

#### Article VII.

The charge for transit passes shall be at the rate of  $2\frac{1}{2}$  per centum *ad valorem* until the arrangements provided for by Article II come into force.

#### Article VIII.

Powers not signatory to the present Treaty whose Governments are at present recognized by the Signatory Powers, and whose present treaties with China provide for a tariff on imports and exports not to exceed 5 per centum *ad valorem*, shall be invited to adhere to the present Treaty.

the other Contracting Powers a certified copy of the process-verbal of the deposit of ratifications.

The present Treaty, of which the French and English texts are both authentic, shall remain deposited in the archives of the Government of the United States, and duly certified copies thereof shall be transmitted by that Government to the other Contracting Powers.

In faith whereof the above-named Plenipotentiaries have signed the present Treaty.

Done at the City of Washington the sixth day of February, One Thousand Nine Hundred and Twenty-two.

Charles Evans Hughes [L. S.]

Henry Cabot Lodge [L. S.]

Oscar W. Underwood [L. S.]

Elihu Root [L. S.]

Baron de Cartier de Marchienne [L. S.]

[L. S.] Arthur James Balfour

四 中國ニ關スル諸問題 (II)

一一一

〔L. S.〕 Lee of Fareham

〔L. S.〕 A. C. Geddes

〔L. S.〕 R. L. Borden

〔L. S.〕 G. F. Pearce

〔L. S.〕 John W. Salmon

〔L. S.〕 Arthur James Balfour

〔L. S.〕 V. S. Srinivasa Sastry

Sao-Ke Alfred Sze

V. K. Wellington Koo

Chung-Hui Wang

A. Sarraut

Jusserand

Carlo Schanzer

V. Rolandi Ricci

Luigi Albertini

〔L. S.〕 T. Kato

〔L. S.〕 K. Shidehara

〔L. S.〕 M. Hanihara

〔L. S.〕 Beelaerts van Blokland

枢密院議長國會議員

「アーサー、ジョームズ、バルフォア」

海軍大臣男爵「リー、オブ、フロアム」

亞米利加合衆国駐劄特命全權大使

「サー、オーフランド、キアンブル、ゲーブス」

加奈陀

「サー、ロバート、ニアド、ボーラン」

濠太利連邦

内務大臣上院議員「ジョージ、フォスター、ピアベ」

新西蘭

新西蘭最高法院判事

「サー、ジョン、ウイリアム、サルモンズ」

南阿弗利加連邦

国会議員「アーサー、ジョームズ、バルフォア」

印度

印度參議院議員

「ヴァーリングマン、サンカラナラヤナ、スリニヴァ

サ、サストリ」

支那共和国大總統

四 中國ニ關スル諸問題 (II)

〔L. S.〕 W. de Beaufort

〔L. S.〕 Alte

〔L. S.〕 Ernesto de Vasconcellos

(右和訳文)

亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、仏蘭西國、伊太利國、日本國、和蘭國及葡萄牙國、

支那國政府ノ歳入ヲ増加スルノ目的ヲ以テ支那関稅率ノ改訂及ニ関連スル事項ニ付條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ為左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ

亞米利加合衆國大統領

合衆國人民「チャールズ、エヴァンズ、ヒューズ」

同 「ベンリー、カボット、ロッジ」

同 「オスカー、ダブリュー、アンダウッド」

同 「ヒリュード、ルート」

白耳義國皇帝陛下

亞米利加合衆國駐劄特命全權大使男爵

「カルチュ、ム、マルシュ」

大不列顛愛蘭連合王國及大不列顛海外領土皇帝印度皇帝陛下

一一一

一一一

「プロックランード」

亞米利加合衆国駐劄代理公使

「ヨンクヘール、ウイルレム、ヘンドリック、ド、ボーフォール」

葡萄牙共和国大統領

亞米利加合衆国駐劄特命全権公使

「アルテ」子爵「ジョゼー、フランシスコ、デ、オルタ、マシャド、ダ、フランカ」

海軍大佐殖民省技術部長

「エルネスト、ジュリオ、デ、カルヴァリオ、イ、ヴァスコンセロス」

右各委員ハ互ニ其ノ全権委任状ヲ示シ之カ良好妥当ナルヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

### 第一条

締約国ノ代表者ハ支那國ト他國トノ間ニ締結セラレタル現存諸条約ニ基キ支那關稅ヲ現実從価五分ニ相当セシムルノ目的ヲ以テスル同關稅ノ改訂ニ閔スル決議ニシテ本條ニ付屬書トシテ添付スルモノヲ千九百二十二年二月四日華盛頓市ニ於テ採用シタルニ因リ締約国ハ茲ニ右決議ヲ確認シ該

改訂ノ結果トシテ決定セラルル稅率ヲ受諾スルコトヲ約前記改訂稅率ハ其ノ公表ノ時ヨリ二月後ニ於テ成ルヘク速ニ之ヲ實施スヘシ

### 付属書

本會議ニ参加スル亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、仏蘭西國、伊太利國、日本國、和蘭國及葡萄牙國ハ支那國政府ノ所要ニ応スル為歲入ヲ增加スル目的ヲ以テ左ノ如ク約定ス

千九百十八年十一月十九日上海ニ於テ閔稅率改訂委員会ノ採用シタル支那輸入稅率表ハ支那國ヲ一方ノ当事國トスル諸通商條約ニ規定スルカ如ク其ノ稅率ヲ現実五分ニ相當セシムル様直ニ改訂セラルヘシ

改訂委員会ハ前記諸國ノ代表者及本會議ニ參加スル諸國ニ依リ現ニ承認セラレタル政府ヲ有スル他ノ諸國ニシテ支那國トノ間ニ輸入及輸出ノ稅率ニ付從價五分ヲ超エサルコトヲ規定スル條約ヲ有シ且該委員会ニ參加スルコトヲ希望スルモノノ代表者ヲ以テ之ヲ構成スヘシ

本條約實施後三月内ニ支那ニ於テ之ヲ開催スヘク其ノ時日及場所ハ支那國政府之ヲ指定スヘシ

### 第三条

第二条ニ規定スル特別會議ハ同條ニ記載スル諸條約ノ條項ニ規定スル釐金ノ廢止及他ノ条件ノ履行ニ先チ適用セラルヘキ暫行規定ヲ考量スヘシ同會議ハ其ノ決定スヘキ期日、目的及条件ニ依リ有税輸入品ニ對シ付加稅ヲ賦課スルコトヲ認ムヘシ

右付加稅ハ之ヲ從価二分五厘ノ一律ノ率トス但シ特別會議ニ於テ過度ニ貿易ヲ阻礙スルコトナクシテ一層ノ增課ヲ負担シ得ルモノト認ムル或種ノ奢侈品ニ付テハ其ノ總付加稅ハ從價五分ヲ超エサル限り之ヲ增加スルコトヲ得

### 第四条

第一条ニ記載スル支那輸入關稅率表ノ即時改訂ノ後同關稅スカ為特別會議ニ依リ直ニ必要ナル措置ヲ執ルヘシ  
右特別會議ハ署名國ノ代表者及該會議ニ參加スルコトヲ希望スル他ノ諸國ニシテ之ニ其ノ代表者ヲ參加セシムルニ足る時期ニ於テ本條約第八条ノ規定ニ從ヒ本條約ニ加入スルコトアルヘキモノノ代表者ヲ以テ之ヲ構成スヘシ右會議ハ



## 会議第六三一号

往電第六〇三号中「カストデアン・バンク」ノ討議ニ際ス

ル米国側ノ態度ハ往電第三〇六号閏税分科会ニ於ケル米國

側ノ態度ニ微シ了解シ兼ヌル点アリシヲ以テ二月七日小田

切ヲシテ「アンダーウッド」ニ会見セシメタル處「ア」ガ

第二十九回總委員会ニ於テ再ヒ本件ヲ議題トセルハ「シャ

ーマン」ヨリノ來電ニ基クモノノ由ニテ米国トシテハ尠ク

トモ今後ノ閏税增收入ニ付テハ之ヲ單三目下ノ二「銀行ノミ

ナラス相当貿易額ヲ有スル國ノ銀行ニモ公平ニ分配寄託ス

ルヲ妥当ナリト認メタルモノニシテ此点ヲ特別會議ニ於テ

審議スヘキ旨明カニ為シ置カントセル趣旨ニ出テタルモノ

ナリ而シテ右ハ決定スルニ至ラサリシモ國務省閏係者ニ篤

ト申入レ特別會議ニ列席スヘキ米国委員ニ対シ必要ナル訓

令ヲ与ヘシムルコトシタシト語リタリ右ニ対シ小田切ハ

或ル少數ノ銀行ノミニ閏税收入ヲ寄託スルハ延テ是等關係

國ノミニ於テ支那財政管理ヲ行フ端緒ヲ開クノ虞アル處此

点ハ帝國政府ニ於テモ特ニ留意セルモノト承知スル旨答置

ケル由ナリ

内田外務大臣宛(電報)

別電  
ワシントン會議全權内田外務大臣宛二月十一日

着電報會議第六四五号

塩税剩余解除拒否問題ニ關スルバルフォア覺書

## 会議第六四四号

貴電第三〇三号ニ關シ

最近「バルフォア」ヨリ「ランプソン」ヲ通ジテ幣原ニ對

シ在支那銀行ニ於テ当然支那政府ニ引渡スベキ塩税剩余

ノ解除ヲ拒否シツアリトノコトナル處右ハ明ニ不当ノ處

置ト認メラルニ付将来此種不当ノ措置ヲ禁庄スル手段ヲ

執リタク場合ニ依リテハ本會議ニトノ意向ヲ伝ヘ来リタル

ニ付取調ノ上何分ノ回答スベシト述べ置キタル處東總委

員会終了ノ日(二月三日)大要別電第六四五号ノ覺書ヲ手

交シ右ハ本国政府ノ訓令ニ依ルモノナルモ此際是非當地ニ

オテ確答ヲ求メントスル次第ニハ非ル旨付言セリ

然ルニ本問題ニ關シテハ貴電第三〇三号及第三〇四号御來

訓ノ次第ハアルモ此種問題ハ當地ニ於テ解決スルコト事実

上困難ナルベク又本使等ノ伝聞スル處ニ依レバ元來本件塩

税剩余解除ノ抑止ハ必ズシモ我独断專行ニ出ルモノニハ非  
ズシテ財政部トノ間ニ予メ相当ノ諒解アルモノナルヤニテ  
果シテ然リトセバ我方立場ヲ説明スルニ一層好都合ナルベ  
キモ右ニ闕シテハ何等御指示無之ニ顧ミ其辺ノ事情モ明確  
ナラズ就テハ前述ノ通「バルフォア」ニ於テモ是非当地ニ  
於テ問題ノ解決ヲ期セントスルモノニモ非ルガ如ク殊ニハ  
既ニ貴電合第四一号ノ通在本邦英國大使ヨリ同様ノ申出ノ  
次第アリ右ニ付テハ何レ何分ノ説明ヲ与ヘラルコトナル  
ベク又實際ニ於テ「バルフォア」モ本會議終了ノ当日帰國  
ノ途ニ就キ當地滯在中本件ヲ交渉スルノ機会ヲ得ザリシ次  
第ニ付右御了承アリタシ  
在英大使へ転電セリ

(別電)

ワシントン會議全權内田外務大臣宛二月十一日着電報會議

第六四五号

塩税剩余解除拒否問題ニ關スルバルフォア覺書

## 會議第六四五号

「バルフォア」覺書ノ要旨ハ一九一三年ノ善後借款契約第

八日付覚書ヲ以テ銀行團カ強硬ナル抗議ヲ提出シタル當時

144 11年2月26日(着) 在米國幣原大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

中國閏稅特別委員會參加國政府ノ各委員長ニ

在中国公使任命ノ件

第六七号

二月二十四日國務長官代理ハ本使ニ向ヒ最近「ゲデス」大  
使ト會談ノ節同大使ハ新條約實施ノ結果支那閏稅ニ關スル

特別委員会成立ノ際ハ之ニ参加スル各ノ政府ノ委員長ハ在北京公使ヲ以テ之ニ充ツル方便宜ナルヘキ旨内談有リタルカ右ハ尤ノ次第ニテ在北京公使以外ノ者ヲ委員長ニ任命スル時ハ委員長ト公使トノ間ニ意見ノ懸隔ヲ生シタル場合ニハ必ス之ヲ利用セムトスル者ノ出ツヘキハ支那ニ経験ヲ有スル者ノ想像スルニ難カラサル處ナリ就テハ米国政府ハ在北京公使ヲ委員長ニ任命セムト考ヘ居ル旨ヲ述ヘ之ニ対スル本使ノ意見ヲ問ヘリ依テ本使ハ本件ニ關スル 帝国政府ノ意向ハ別ニ承知セサルモ支那ノ現状ニ通シ居ル在支公使ヲ各国政府カ委員長ニ任命スルハ至極適當ナルヘシト認メラルル旨ヲ答ヘタルニ「フレッチャ」ハ日英米三国ニ於テ各其在支公使ヲ任命スルコトトナラハ他国モ自然其例ニ做フニ至ルヘシト語レリ次ニ本使ハ右ハ單ニ關税委員会ノミナラス領事裁判權ニ關スル委員会ニ就テモ同様ノ方法ニ

依ルヘキ意向ナリヤト尋ネタル處「フレッチャ」ハ元來領事裁判權ニ關スル委員ハ法律家ヲ以テ之ニ充ツルコト適当ナルヘキモ在支公使ヲ委員長トシ之ニ法律家ヲ付加スルモ可ナルヘシ尤モ此事ニ就テハ別ニ考ヘ居ラサリシ次第ナリト語レリ右何等御参考迄

145 11年4月1日（着）在米國佐分利臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

#### 中國關係條約ノ米國上院無留保通過ノ件

第一六七号

支那ニ關スル一般的條約ハ三十日午後三時六十五對零ヲ以テ又關稅率條約ハ同午後五時五十八對一ヲ以テ何レモ無留保ニテ上院ヲ通過セリ  
在英仏大使ヘ転電セリ

## 事項五 シベリア及ビ東支鉄道ニ關スル問題

### （一）シベリア問題

1 10年12月12日（着）ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

#### 日本軍ノシベリア撤退ヲ求メ極東共和国代表

##### ワシントン來着ノ件

會議第一七〇号  
（十二月八日ワシントン発）

Yazikoff ラ長トシ Skurisky, Karavaeff, Fargman ラ以テ組織スル極東共和国代表者一行十二月五日当地ニ來着スルト同時ニ陳述書ヲ發表シ其ノ大要ハ當地二三新聞ニ掲載セラレタルガ極東共和国代表者來華ノ目的ハ第一ニ西比利亞ヨリ日本軍ノ撤退ヲ要求スルコトニシテ次ニハ諸外國ト貿易關係ヲ開始シ者多政府ノ承認ヲ求ムルニアリト為シ更ニ極東共和国ノ政策ハ勞農政府ト親善ヲ計ルニ存シ露国民ハ勿論「インテエリゲンチア」階級ト雖勞農政府ノ下ニ結束セムコトヲ欲シ農民モ亦莫斯科政府ノ新經濟政策ヲ悦ビ同政府ヲ支持セムコトヲ希望シ居レリ云々ト發表シ居レリ尚右一行ハ當地着後直チニ「ファルグマン」ヲ國務省ニ遣

ハシ外交官ノ特權トシテ一行ガ「シアトル」港ニ於ケル稅關倉庫ニ残シタル手荷物ノ無検査通関方ヲ要求シタルガ國務省ニ於テハ米国ノ承認セザル政府ノ代表者ニハ其特權ヲ認ムルコトヲ得ザル旨ヲ答ヘ次ニ「ファルグマン」ガ國務長官ニ於テ齊多代表ヲ接見セラレムコトヲ要求シタルニ對シ國務省ニ於テハ之ヲ拒絶シ極東課長ヲシテ面談セシメムコトヲ答ヘタル趣ナルガ翌日「ヤヂコーフ」自ラ國務省ニ出頭シ同一行ニ對シ外交官ニ準ズル特權ヲ与ヘラレムコトヲ要求シタルモ終ニ成功セザリシトノコトナリ  
尚露國帝政派ニ属スルモノモ當地方ニ於テ相當宣伝ヲ試ミ居リ千九百十六年ノ日露秘密協約ノ破棄及白人ニ依ル西比利亞ノ開發等ヲ主張シツツアリ

2 11年1月3日（着）在英國林大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

#### マンチェスター・ガーディアンノシベリア問

題ニ關スル日仏交換文書報道ノ件

五 シベリア及ビ東支鉄道ニ關スル問題（一）